12-22 No13807

演習記事

明治十五年一月艦隊ノ陸戦演習ヲ施行セントシ東京湾ニ於テ仮ニ敵国ヲ海外ニ置キ其軍艦ヲ以テ敵地ヲ占領セントスルモノニ擬シ便ナル艦隊運送船ニ乗組ノ歩兵砲工ノ諸兵若干ナリ以テ同隊ノ陸戦演習ヲ行フ（分ス）

此ノ演習ヲ為スニ当リ敵兵ヲ搭載セシメシ運送船ニ乗組ノ諸兵若干ハ相州三浦半島ノ一端ナル観音崎ニ集合シ此ヲ敵兵防備ノ事アル対岸ノ地ニ配置シ之ヲ北軍ト名ケ東京湾ノ防勢ヲ取ラシメ又館山湾ニ集合シタル諸兵若干ハ同盟ノ南軍ト名ケ北軍ノ防備スルモノト定メ同盟ノ諸兵若干ハ相州三浦半島ノ一端ナル観音崎ニ集合シ此ヲ敵兵防備スル事アル対岸ノ地ニ配置シ之ヲ北軍ト名ケ東京湾ノ防勢ヲ取ラシメ又館山湾ニ集合シタル諸兵若干ハ同盟ノ南軍ト名ケ北軍ノ防備スルモノト定メ同盟ノ諸兵若干ハ

海軍省

両軍共ニ各指揮官ヲ命シ一般及ヒ特別方略ノ目的ヲ達スル為メ計画運動ヲ為サシメタリ然ルニ艦隊ニ於テハ此事実ニ関係アリテ不可ナリ司令官以下幕僚部下ニ至ル迄能ク此ノ運動概ネ共計画運動ヲ為サシメタリ然ルニ艦隊ニ於テハ此事実ニ関係アリテ不可ナリ司令官以下幕僚部下ニ至ル迄能ク此ノ運動概ネ

往ナルヲ見ルト雖モ両軍優劣ノ如キハ北軍ヨリ艦隊ヲ置カサルヲ以テ演習ノ結果甚タ

ク審判スベカラス唯二三運動ノ可否ハ曩ニ已ニ訓示シタリ若シ今回ノ演習ヲ鑑ミ孜々トシテ兵事ヲ研究シ黽勉部下ヲ薫陶スルアラ

ハ海軍ノ鴻益タル蓋シ量ルヘカラサルモノアラン曩ニ中艦隊司令官松村淳藏病氣ニ付資紀審判長ノ任ニ當リテ總指揮官ノ職ヲ執行セリ依テ今回ノ演習ニ於テ實施ノ條項ヲ編纂セシメ之ヲ向來ノ參考ニ供スト云

明治十八年四月

海軍少將子爵樺山資紀

小艦隊東京鎭臺約束演習ニ關スル一般ノ敎旨

當三月上旬天龍筑紫天城第二丁卯雷電及ヒ千代田形ノ六艦ヲ以テ一小艦隊ヲ編制シ東京鎭臺ト聯合シ實地ノ小演習ヲ施行ス抑モ此演習タルヤ我海軍ニ於テハ陸兵ヲ海外ニ護送シ之ヲ敵地ニ揚陸セシメ或ハ砲臺ヲ攻撃シ又ハ陸兵ヲ應援スル等海陸兩軍ノ相聯合シテ事ヲナスノ肝要ナルノ實況ヲ公明ニセン爲メナリ故ニ上ミ司令官ヨリ下一卒ニ至ル迄能ク此意ヲ認體シ體力心胆ヲ練磨シ各本分ノ任務ニ努力スヘシ艦內ノ規律警戒ハ勿論一卒ノ起居動作ニ至ル迄總テ實戰ニ摸擬シ務メテ嚴明靜肅ニスヘシ

夫レ行舟戰鬪ノ術ハ常ニ講習スル處ナルモ聯合對敵ノ演習ハ今回ヲ以テ嚆矢トス故ニ司令官及ヒ各部ノ長タルモノハ戰鬪ノ方法ハ勿論命令運搬等ノ諸件ニ至ル迄悉ク實戰ニ摸擬シ居常講習スル操練ハ實際ニ適應スルヤ否ヤヲ驗明シ且ツ陸兵乘船上陸及ヒ海陸兩軍間ノ通報信號ニ互ニ相應援スル方法ヲモ實地研究スルノ好機會ナルヲ以

テ各本分ノ職權ヲ侵失スルヿナク勉メテ此事ニ從事シ將來ノ益ヲ謀ルヿニ努力スヘシ

小演習ニ關スル敎旨

一海陸聯合小演習ハ三月八日ヨリ相州三浦郡ニ於テ四日間連續施行スル之カ爲メ演習艦隊ノ諸艦ハ同月六日ニ房州舘山灣ニ集會シ陸軍諸隊ト聯合スル之ヲ南軍ト稱ス其艦隊司令官ハ海軍大佐相浦紀道ニシテ陸軍指揮官ハ步兵大佐兒玉源太郎タリ(北軍ノ指揮官ハ步兵中佐立見尙文)故ニ南軍ニ於テハ海陸兩軍ニ關係スル機務ハ兩指揮官ノ共議ヲ以テ處分スヘキモノトス

一小演習一般方略ハ東京鎭臺司令官ト共議之ヲ定メ豫メ之ヲ告示スル故ニ該司令官ハ一般及ヒ特別兩方略ニ基キ麾下諸艦ニ下ス部署及ヒ諸命令ヲ翌七日正午迄ニ封書親展ヲ以テ本官ニ致スヘシ

一予ハ審判長總指揮官トシテ海軍ニ關スル諸運動ヲ審判スル之カ爲メ審判官及ヒ同陪從員若干ヲ以テ補助セシムル故ニ運動中ト雖ヒ審判官ヲシテ之ヲ中止シ又ハ再興セシムルノ權ヲ有スルモノトス又如何ナル時機ニ在テモ該官及ヒ陪從員ノ尋問スルヿアレハ詳ニ之ニ應答スヘシ」

一演習中ハ將校準將校及准士官ハ正服下士以下ハ略服ヲ着用スヘシ(但シ陸戰隊ハ軍裝ヲナスト雖ヒ毛布ハ携帶スルニ及ハス)

一審判官及ヒ陪從員ハ左腕ニ赤布ヲ又來觀ノ軍人軍屬ハ右腕ニ白布ノ裁片ヲ附シテ識別トス又北軍(即チ敵軍)ハ帽子ニ白布ノ日覆ヲ用ヒテ南軍ト區別ス

一機砲ニハ空砲ノ備ナキヲ以テ其位置ニ於テ小銃連發ヲナシ其射撃ニ擬スルモノトス

一演習ヲ中止シ又ハ再發セシムルニハ左ノ信號ヲ用フ

一(零)(一)(零)旗ノ下ニ(一)旗ヲ加フ 中止

一(零)(二) 上ニ仝シ 再發

一射撃スヘキ目標ノ種類ニ從テ之ニ應スル彈種ヲ用フルヿヲ瞭然タ

ラシムル爲メ左ノ如キ區別旗ヲ「フオールヤーダーム」ニ掲クルモノトス

赤旗 〔實彈 鋼鐵榴彈 堅鐵實彈 堅鐵榴彈〕 零旗 〔通常榴彈 片鐵榴彈 花環榴彈 榴霰彈〕

第二和音旗 〔霰彈〕

第一和音旗 〔機砲〕

一陸兵運送ノ船舶ハ運送船旗ヲ掲クヘシ

一乘船場ニハ目標トシテ運送船旗ヲ掲揚シ日沒後ハ旗竿上ニ赤燈一個ヲ掲クヘシ

一上陸場ニハ國旗ヲ掲揚シ日沒後ハ赤燈ヲ掲クルヿ乘船場ニ同シ

一演習來觀人ノ乘船ハ後檣ニ白旗ヲ掲揚スヘシ

明治十八年二月二十五日

中艦隊司令官海軍少將

松村淳藏

中艦隊司令官海軍少將松村淳藏病氣ニ付審判長總指揮官ノ職務ハ本官之

ヲ執行ス

明治十八年三月一日

海軍少將子爵樺山資紀

演習海運支局心得 本局ハ東京ニアルモノト假想ス

第一條 演習海運支局ハ房州館山灣ニ設置シ派出官ヲ置キ雇役シタル船舶ヲ統轄シ兵員馬匹軍需ヲ運搬スル處トス

第二條 該支局ニハ局長ヲ置カス海軍派出ノ高級或ハ先任官ヲシテ局務ヲ處分セシム

第三條 局員ハ演習三日前ニ該地ニ出張シ地形ニ應シ人馬軍需ヲ艀船ニ搭載セシムル場所ヲ撰定シ「デリック」或ハ棧橋等ヲ建設スヘシ

第四條 該支局ハ運搬スヘキ人馬軍需ノ數量書ヲ南軍陸軍指揮官ヨリ領取スヘシ

第五條 該支局ハ乘載人馬軍需ノ數ニ應シ雇役スヘキ艀船ヲ撰定シ

之ヲ陸軍計官ニ報知スヘシ

第六條　積載ノ爲メ荷造リヲ爲スハ其所屬ノ擔任タリト雖ニ荷造リ粗造ニシテ破損或ハ危險ノ恐レアルトキハ局員ヨリ申告シ之ヲ改造セシムルヲ得

第七條　局員ハ運搬スヘキ人馬軍需ノ緩急ヲ計リ陸軍指揮官ト協議シ軍機ヲ誤ラサルヲ要ス

第八條　演習運送船舶ニハ海軍將校二名ヲ乘組シメ人馬軍需ノ積載及ヒ航海ヲ監督シ演習艦隊司令官又ハ軍艦トノ通信ヲ掌ラシム

第九條　該支局ハ各運送船ニ搭載スヘキ人馬軍需ノ數量ヲ定メ其詳細書左式ノ如キモノヲ製シ演習艦隊司令官及ヒ運送船乘組海軍士官ニ送致スヘシ

兵器彈藥輜重積載表

名稱	員數	彈藥	目量	備考

車輛

輜重荷物	量目	備考

人馬乘船表

兵種	上長官	士官	下士	兵卒	軍屬	人夫	計	馬匹	備考
步兵									

演習運送船乘組海軍士官心得

第一條　演習運送船乘組ヲ命セラレタル海軍士官ハ其船ノ人馬軍需ノ積卸運送及ヒ航海ヲ監督シ演習艦隊司令官若シクハ艦長ト其船ト通信幷ニ海運局ノ命令ヲ其船ニ傳送スルヲ掌ル

第二條　該海軍士官ハ海運局ヨリ派出スト雖ヒ演習艦隊司令官若シクハ軍艦長ノ指揮ヲ受クヘキモノトス

第三條　該海軍士官ハ水兵三名ヲ引卒シ信號其他ノ事ニ從ハシムヘシ

第四條　該海軍士官ハ艦隊運動書海軍信號書萬國船舶信號書各一部海軍信號旗及ヒ信號燈ヲ携帶スヘシ

第五條　該海軍士官ハ其船舶人馬軍需ノ積載完了スルヤハ之ヲ海運支局ニ通報シ出港時日ノ指令ヲ受ケ之ヲ船長ニ通知スヘシ

第六條　該士官ハ陸軍諸兵ノ乘船スルヤハ其隊長ト協議シ兵員ヲシテ船則ヲ守リ且ツ船長以下ノ操業ニ妨礙ナク與ヘサラシムヘシ

第七條　該士官ハ日記簿ヲ所持シ其船起錨後航海往復ノ景況ヲ記シ置クヘシ

第八條　該士官ハ積載セル人馬軍需ヲ揚陸シ了ルヤハ演習艦隊司令官若シクハ軍艦長ニ届出ツヘシ

第九條　該士官ハ艙門毎ニ一、二、三等ノ番號ヲ貼付シ各艙門ニ應スル兵

員幷ニ艀舟ヲ定メ置キ揚陸ノ際混雜ナキ樣整備スヘシ

演習運送船條例

第一條　演習ノ爲メ雇役シタル船舶ハ此條例ヲ遵守スヘシ

第二條　該船舶ハ演習海運支局ノ管轄ニ屬スルモノトス

第三條　該船舶ハ海軍運送船旗ヲ揭揚スヘシ

第四條　該船舶ハ軍機ニ關シテハ演習艦隊司令官ノ指揮ニ從フヘシ

第五條　該船舶雇役ニ應シ指定ノ地ニ到達セハ其趣ヲ海運支局ニ通報スヘシ

第六條　該船舶ニハ人馬及ヒ軍需搭載前ニ海軍士官ヲ監督トシテ乘船セシムルモノトス

第七條　該船舶ニ搭載スル人馬軍需ノ數量ハ海運支局ノ定ムル處ニ從フヘシ

第八條　乘船人ハ概ネ左ノ如ク區別スヘシ

上等　海陸軍將校准將校

中等　海陸軍准士官
下等　海陸軍下士以下

但シ船内ノ搆造ニ依リ乗組海軍士官適宜ニ定ムルコトアルヘシ

第九條　該船舶ニ於テ火酒礦油ヲ取扱フニハ白晝上甲板ニ於テスヘシ

第十條　該船舶ニ於テハ定處外ニ於テ吹煙スルヲ禁ス又何人タリトモ發火シ易キ物品ヲ携帯スルヲ禁ス

第十一條　該船舶ニ於テハ火屋（ホヤ）又ハ覆ナキ燈火ヲ用ユヘカラス

第十二條　船長ハ乗組海軍士官ヨリ尋問スルコトアレハ何事タリトモ之ニ答フヘシ

第十三條　船長ハ人馬軍需ヲ迅速ニ且ツ適當ニ積載スルノ責任アルモノトス

第十四條　船長ハ人馬軍需ノ積載完了シ其船舶航海ノ準備整フタルトキハ速ニ乗組海軍士官ニ届出ツヘシ

第十五條　船長ハ常ニ救命端舟ヲ備ヘ船夫ノ配置ヲ定メ何時ニテモ降シ得ル様準備スヘシ

第十六條　船長ハ消火具ヲ整頓シ且ツ船夫ノ配置ヲ定メ置クヘシ

第十七條　船長ハ船ノ進退速力等ニ於テハ乗組海軍士官ノ命ニ従フヘシ

第十八條　船長ハ指定ノ地ニ到達ノ際ハ乗組海軍士官ノ指揮ニ従ヒ錨場ヲ定ムヘシ

第十九條　船長ハ人馬軍需ヲ陸揚ノ後ヲ其地ヲ出發スルニハ乗組海軍士官ノ指揮ニ従フヘシ

第二十條　該船舶ノ運轉手機關手事務長以下總テ海運局ノ命令ニ従ヒ何事タリトモ乗組海軍士官ノ尋問ニ答フヘシ

食堂掲示

一船室ノ窓ヨリ塵埃等ヲ投棄スヘカラス

一船室ノ装置ハ決シテ變換スヘカラス

一室外ニ出ルトキハ必ス燈火ヲ消滅スヘシ

一濕衣ヲ室内ニ置クヘカラス

一外套剣或ハ手荷物等ヲ室外ニ置クヘカラス

一中下甲板室内ノ窓ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ開閉スヘカラス

但シ開閉ハ該船伴ヲシテ爲サシムル者トス

梯楷掲示

一此近傍ニ佇立或ハ徘徊スルヲ禁ス

浴室掲示

一浴室ヲ出ツルトキハ龍口ヨリ水ノ漏ルヽコトナキヤ否ニ注意スヘシ

一浴室ノ扉ヲ明ケ放ス可カラス

厠掲示 西洋風

一孔板ノ上ニ乘ルヘカラス必ス腰掛ルヲ要ス

一厠ヲ出ツル前ニハ排泄物ヲ洗流スヘシ

一厠ヲ出ツルトキハ龍口ヨリ水ノ流ルヽコトナキヤ否ニ注意スヘシ

一四壁或ハ扉等ニ落書スヘカラス

一厠ノ扉ヲ明ケ放ツ可ラス

艀船乘員心得

一運送船艙門毎ト(一)(二)ノ番號ヲ記載シ置クヲ以テ陸軍兵員ハ上陸ノ順序ニ依リ該近傍ニ整列シ艙門及ヒ梯楷ニ混雜ヲ生セサル樣注意スヘシ

一兵員艀船ニ移ルトキハ下士一人艙門ニ於テ小銃ヲ受取リ其兵艀船ニ乘リ入リタル際之ヲ贈リ乘船ヲ助クヘシ

一上陸編制ノ順序ニ依リ先登員ヲ船首ニ乘船セシメ逐次船尾ニ至ルヘシ

一艀船中央シテ談話スヘカラス

一艀船中ニ坐シ決シテ立ツヘカラス

一艀船ノ側縁ニ腰掛ルヘカラス

一決シテ銃ニ裝塡スヘカラス

明治十八年二月二十五日

中艦隊司令官海軍少將松村淳藏

艦

丸　拾二名　四馬力船　七名　十馬力船　七名

丸　肥後丸

官諸職員表

小艦隊司令官	海軍大佐	相浦紀道
參謀長	海軍中佐	山崎景範
司令官參謀	海軍大尉	片岡七郎
司令官秘書	海軍少佐	伊東蒙吉
仝　秘書補	海軍少主計	平野文夫
機關部長	機關少監	谷木義爲
軍醫部長	軍醫少監	河村豐洲
運送船乘組士官	海軍少尉	貴島才藏
仝	海軍少尉	齋藤孝至
仝	溝原實雄爲	山上貞馨
仝	井規矩之左右	島員規
仝	藤喜太郎	
仝	田五六郎	

演習小艦隊軍艦略表

艦名	裝砲	馬力 速力	艦質 檣數	縱長	橫幅	吃水	定員	乘組將校
天城	新式後裝十七拇克砲 一 仝 十二拇克砲 四 一尹四連諸典砲(假想) 四 後裝八拇プロートウエル砲 一	七百二十馬力 八里半	木製 三檣	二百十六尺	三十一尺	前十二尺 後十四尺	百五十二人	艦長海軍少佐 東郷平八郎 副長海軍大尉 安田虎之助 分隊長海軍中尉 德久武宜 分隊長海軍中尉 林讓作 機關長大機關士 朝倉俊一郎 軍醫長中軍醫 三宅貞造 主計長中主計 飯村知 航海長海軍中尉 安岡淳吉
天龍	新式後裝十七拇克砲 一 仝 十五拇克砲 一 仝 十二拇克砲 四 仝 短七、五拇克砲 一 一尹四連諸典砲 四	千二百五十馬力 十二里	木製 三檣	三百〇一尺	三十二尺	前十四尺 後十六尺	二百五人	艦長海軍少佐 三浦功 副長海軍大尉 有馬新一 航海長海軍大尉 友野雄介 分隊長海軍大尉 梨羽時起 分隊長海軍中尉 坂本八郎太 砲術長海軍中尉 林昌澄 分隊長海軍中尉 池端清 機關長大機關士 原實員 軍醫長中軍醫 奥村弘哉 主計長中主計 相原益功
筑紫	新式後裝十尹安砲 二 仝 四十斤安砲 四 仝 九斤安砲 二 三、七拇五連保知砲 四	二千四百馬力 十一里	鋼製 二檣	二百廿尺	三十二尺	前十五尺 後十六尺	百八十三人	艦長海軍中佐 松村正命 副長海軍大尉 河原要一 航海長海軍大尉 中村正亮 砲術長海軍中尉 大塚暢雄 分隊長海軍中尉 安原金次 機關長大機關士 湯地定監 軍醫長大軍醫 中川義香 主計長中主計 藤本綱長
丁卯	前裝六十四斤安砲 一 仝 四十斤安砲 一 十二拇臼砲 一 後裝八拇プロートウエル砲 二 一尹四連諸典砲(假想) 二	百五十七馬力 七里半	木製 三檣	百三十五尺	二十一尺	前七尺 後八尺	八十七人	艦長海軍少佐 松岡方祗 分隊長海軍大尉 本田有智 分隊長海軍中尉 村越豐房 航海長海軍中尉 宮川房之 機關長大機關士 片江義高 軍醫長中軍醫 石神六郎 主計長中主計 吉井眞吉
雷電	前裝十二斤六角砲 四 一尹四連諸典砲(假想) 三	百二十八馬力 三里半餘	木製 二檣	百五十尺	二十二尺	前九尺 後十尺	八十七人	艦長海軍少佐 五藤國幹 分隊長海軍大尉 小川親政 航海長海軍中尉 前田淨一 分隊長海軍中尉 永峯光孚 機關長心得少機關士 山本直德 主任軍醫少軍醫 野田洪哉 主計長中主計 宮崎正常
千代田	舊式後裝三十斤克砲 一 十二斤米式銅砲 一 一尹四連諸典砲(假想) 二	六十馬力 四里半	木製 二檣	九十七尺	十五尺	前五尺 後六尺	四十一人	艦長演習中 海軍大尉 島崎好忠 先任士官 海軍大尉 上村彦之丞

演習小艦隊各艦人員表

官職＼艦名	天城	筑紫	天龍	丁卯	雷電	千代田形	蒼龍	合計	記事
上長官	七	一	一	一	一			一一	朱八臨時乘組
	二							二	
士官	一三	一六	一六	七	七	四	五	六八	
	八		一	一	一			一一	
準士官	九	一三	五	二	二	三	三	三七	
	一	一	一	一				四	
下士	三二	三〇	三三	一九	二二	八	一三	一五七	
	二	一	三	一	一			八	
卒	七八	一〇五	一二九	四七	四五	二一	一八	四四三	
	二四	一一	五七	一〇	一〇	三		一一五	
准卒	一七	二一	二一	八	八	五	一〇	九〇	
總員	一五六	一八六	二〇五	八四	八五	四一	四九		
	三七	一三	六二	一三	二	三		一四〇	九百四十六人

蒼龍艦

附屬船乘員 牛若丸 拾二名 四馬力船 七名 十馬力船 七名

相摸丸 肥後丸

演習諸官諸職員表

審判長 總指揮官	海軍少將	樺山資紀
審判官	海軍大佐	井上良馨
審判長陪從	海軍少佐	鮫島員規
仝	海軍大尉	櫻井規矩之左右
仝	仝	遠藤喜太郎
仝	仝 中尉	石田五六郎
主計部長	主計少監	栗原實
乘船場司令	海軍少佐	中溝爲雄
上陸場司令	海軍少佐	新井有貫
仝 副司令	海軍中尉	橋元正明
陸戰隊司令	海軍少佐	尾本知道
運送船乘組士官	海軍中尉	東郷正路
仝	海軍中尉	藤戸永綱
小艦隊司令官	海軍大佐	相浦紀道
參謀長	海軍中佐	山崎景範
司令官參謀	海軍大尉	片岡七郎
司令官秘書	海軍少佐	伊東蒙吉
仝 秘書補	海軍少主計	平野文夫
機關部長	機關少監	谷木義爲
軍醫部長	軍醫少監	河村豐洲
運送船乘組士官	海軍少尉	貴島才藏
仝	海軍少尉	齋藤孝至
陸上信號士官	海軍中尉	向山愼吉
仝	海軍少尉	北古賀竹一郎
牛若丸乘組士官	海軍少尉	野元綱明
十馬力船乘組士官	海軍少尉	山田錄郎

一般方略

南軍艦隊ハ房州館山灣ニ集艤シ相摸半島ノ要地ヲ攻襲シ陸軍諸兵ノ上陸ヲ得セシメ東京ニ進入セントス

北軍海岸砲兵ハ敵艦ヲ掃攘シ其他ノ諸兵ハ海岸砲兵ヲ援助シ南軍ノ上陸ヲ防禦スヘキモノトス

南軍

海軍小艦隊　天城　天龍　筑紫　附屬十馬力船
運送船相摸丸　雷電　千代田　病院船丁
後丸　海軍陸戰隊二小隊　陸軍諸兵

第一日三月八日揚陸歩兵第二聯隊

第二日三月九日午前第十一時三崎町ニ揚陸

歩兵第三聯隊第二大隊　騎兵第一大隊第一中隊ノ内二小隊　砲兵第一聯隊第二大隊　工兵第一大隊第二中隊

特別方略

南軍

三月七日夜陰ニ三浦半島ノ要地ヲ偵察シ翌八日運送船ヲ率ヒテ舘山灣ヲ發シ午前第六時金田灣ノ守兵ヲ砲擊掃攘シテ陸軍諸兵ヲ菊名上宮田村間ノ要地ニ上陸セシメ海岸ニ沿ヒ海陸應援併進シテ鴨居及ヒ觀音崎ノ砲臺ヲ占領シ東京ニ進入ノ目的ヲ達スヘシ

但シ上陸隊ヲ編制シ陸軍諸兵上陸ノ際タ敵ノ來襲ニ備フヘシ

明治十八年三月六日於舘山灣蒼龍艦

審判長總指揮官

海軍少將子爵樺山資紀

第一日(三月八日)

南軍

海軍

艦隊司令官部署命令

一般及ヒ特別方略ニ基キ三月八日觀音崎ノ砲臺ヲ占領シ東京灣ニ進

入ノ部署ヲ定ム

一艦隊ハ第一第二ノ二小隊ニ分ツ其第一小隊ハ天城天龍筑紫第二小隊ハ丁卯雷電千代田トス而シテ七日午後各艦均シク進戰攻擊ノ準備ヲナスヘシ略式戰爭準備

一牛若丸ヲ偵察船トシ士官二名ヲ分乘セシメ其要領ヲ訓示シ先ツ發シ黑夜ニ乘シ觀音崎及ヒ金田灣菊名上宮田村近傍ニ潛入シ沿岸防禦ノ形狀ヲ密察シ若シ水雷ヲ設置シアルトキハ探底法ヲ以テ之ヲ引揚ケ其電纜ヲ切斷シ艦隊進入ノ航路ヲ開キ之カ支障ナカラシメ翌八日午前四時頃金田灣豫定ノ洋面ニテ艦隊ニ會同シ偵察ノ事情ヲ申告スルモノトス

一八日午前一時頃第二小隊丁卯雷電千代田形ノ三艦及ヒ四馬力船ヲ先發セシメ同四時頃ニ金田灣豫定ノ地ニテ一番小隊ノ來ルヲ待タシム速力遲緩ナルカタメナリ

一八日午前二時半一番小隊天城天龍筑紫ノ三艦拔錨シ運送船及ヒ十

馬力船之ニ續テ發シ艦隊運動程式ニ隨テ進行シ金田灣豫定ノ地ニ於テ二番小隊及ヒ偵察船ト會同スヘシ

一偵察士官ノ申告ヲ得テ敵地狀況ヲ知ルヤ直チニ進テ菊名近海ニ入リ先ツ運送船及ヒ假病院船ヲ敵砲ノ彈着外ニ停メ一番小隊ハ凡ソ三千米突ノ地ニ到リ回轉繰打打方ヲ以テ獨立シテ敵ノ砲壘ヲ打チ彼ノ砲勢ヲ試ミ機ニ應シ進ンテ適宜ノ地ニ駐停シ一舷打方ヲ以テ其砲壘ヲ擊攘スルヲ目的トス二番小隊ハ可成進ンテ岸邊ニ近接シ大砲機關砲及ヒ小銃ヲ急擊シテ敵兵ヲ驅逐シ或ハ敵ノ潛伏又ハ迂回兵等ノ變ニ應シ信號ヲ以テ之ヲ左右シ緩急相應セシム

一敵ノ砲壘破壞セラレ我砲勢ノ激烈ナルニ依テ防禦ニ堪ヘス稍ヤ退走スルヲ見レハ直ニ水兵二小隊ヲシテ上宮田村菊名村ノ間ニ於テ適宜ノ地ヲ撰ンテ上陸セシメ其要害ヲ占領シ防戰中迅カニ棧橋ヲ架設シテ陸軍兵ノ上陸ヲ容易ナラシムル尤モ此間艦隊ハ上陸兵ノ正面及ヒ左右翼ヲ探擊シ敵ヲシテ再ヒ襲擊シ來ルヲ得サラシム

一陸軍兵馬及ヒ輜重等全ク揚ケ終ル時ハ水兵隊ハ速カニ其本艦ニ歸乘セシム

一上陸ノ陸軍兵長澤村ニ向テ進ムニ從ヒ雷電千代田兩艦ヲ以テ海岸ニ沿ヒ之ヲ應援セシム

一假病院船ハ傷者及ヒ疾病者ヲ搭載セシモノト假定シ一旦舘山灣ニ回送シ再ヒ旗艦ノ所在ニ來リ臨機使役ノ用ニ供スルモノトス

一十馬力及ヒ四馬力船ハ第一小隊ニ從テ觀音崎ニ進ミ若シ水雷等ノ障碍物アラハ之ヲ掃蕩スルニ備フ

一天城天龍筑紫丁卯ノ四艦ハ陸軍兵上陸シ了リ各水兵隊歸艦スルヤ否哉直ニ全速力ヲ以テ觀音崎ニ向テ急行シ天城天龍筑紫ノ三艦ハ觀音崎第一砲臺ノ凡南東適宜ノ地ニ駐停シ敵ノ彈着寡少ナレハナリ先ツ鴨居村砲臺ヲ斜面ヨリ各艦齊シク一舷打チナシ丁卯艦ハ「アシカ」島以內ノ陸地ニ沿フテ潛行シ同砲臺ノ側面ニ近接シテ大砲及機砲ヲ急擊シ他ノ三艦ト力ヲ戮セテ一時ニ轟壞スルモノトス已ニシテ丁卯艦

モ來テ三艦ニ合シ同位置ヨリ第三第四砲臺ヲ前同一ノ射法ヲ以テ各艦合撃スヘシ而シテ全ク之ヲ破ルトキハ敵彈達セス已ニ安全ナルヲ以テ猶運動ヲナシ直チニ一番砲臺ニ掛リ四艦共ニ齊シク同射法ヲ以テ側面ヨリ之ヲ崩壊シ進ンテ第二砲臺ノ凡ソ南東適宜ノ地ニ駐停シ又同射法ニ依テ砲撃シ同臺ノ右翼ヨリ逐次之ヲ崩壊シテ遂ニ觀音崎ヲ占領シ東京灣ニ進入ノ目的ヲ達スルモノトス

一觀音崎砲臺ヲ攻撃スルニ當テハ其何番砲臺ヲ射撃スルヲ瞭然タラシムル爲メ特別信號書ノ號旗ヲ前檣上ニ掲ケテ之ヲ指示ス

偵察官ヘ命令

其官牛若丸ニ乘組今七日黒夜ニ乘シ敵地觀音崎及ヒ金田灣ノ近傍ニ潜入シ沿岸防禦ノ形狀ヲ密察シ若シ水雷ノ設置アルトキハ之ヲ引揚ケ電線ヲ切斷スル等ノ術ヲ盡シ翌八日午前四時迄ニ(觀音崎燈臺ヲ北々東劒崎燈臺ヲ西南西ニ見ル)金田洋面ニテ旗艦ヲ待合セ偵察ノ事情ヲ報告スヘシ

二番小隊先任艦長ヘ命令

其官雷電千代田形ノ二艦及ヒ四馬力船ヲ引率シ明八日午前零時三十分敵地ニ向テ先發シ(觀音崎燈臺ヲ北々東劒崎燈臺ヲ西南西ニ見ル)金田洋面ニテ旗艦ノ來着ヲ待ツヘシ

牛若丸乘組士官ヘ命令

其官偵察濟ノ上ハ假病院船ト相定メ候條不都合無之樣可被取計又陸兵敵地ヘ上陸ノ後信號ヲ以テ相達次第房州舘山ヘ回船患者ヲ送院ノ上再ヒ艦隊集合ノ地ニ歸航スヘシ

陸戰隊司令官ヘ命令

其官命令次第兼テ定メ置タル二小隊ヲ引率シ上宮田菊名兩村間ニ於テ適宜ノ地ヲ撰ンテ速カニ其要害ヲ占領防戰シ棧橋架設及ヒ陸軍兵ノ上陸ヲ容易ナラシムヘシ

上陸場司令官ヘ命令

其官命令次第兼テ定メ置タル水兵木工ヲ引率シ速カニ上陸場ノ棧橋

ヲ架設シ陸軍兵ノ上陸及ヒ輜重兵ノ陸揚ヲ司ルヘシ

各艦長ニ命令

明八日午前六時敵地ヘ進入ノ爲メ別紙ノ通リ部署ヲ相定メ候條此旨相達候也

明治十八年三月七日

南軍小艦隊司令官

海軍大佐相浦紀道

南軍小艦隊及陸軍諸兵房州館山灣ニ於テ演習出戰準備ノ景況

小艦隊天城天龍筑紫第二丁卯雷電千代田形ノ六艦ハ分テ之ヲ二小艦隊トナシ天城天龍筑紫ノ三艦ヲ第一小隊トシ第二丁卯雷電千代田形ノ三艦ヲ第二小隊ト爲セヴ司令官ハ天城艦ニ乘在シ之ヲ旗艦トス既ニシテ各艦共ニ略式戰鬥準備ヲナシ三月六日午前六時二十分相州長浦灣發艦館山灣ニ向テ駛行ス海上小隊毎ニ艦隊運動ヲ演練シ同十一時第一小隊率先館山灣ニ入リ那古ノ沖ニ横列ニ碇泊シ次テ午後二時第二小隊入港ス司令官ハ直ニ之ニ旗號ヲ傳ヘ旗艦ヨリ陸地ニ二錨索ヲ隔テヽ横列ニ碇泊セシメタリ此時審判長總指揮官樺山少將ノ旗艦蒼龍ハ館山沖ニ在泊ス天城艦之ニ對シテ禮砲十三發ヲ施行ス陸兵ヲ運搬スヘキ相摸肥後ノ二船ハ七日午前八時入港旗艦ノ命ヲ以テ館山沖ニ碇泊ス又海運支局ハ館山仲町長福寺ニ設置シ之ニ國旗ヲ掲ク陸兵乘ニハ同所瀛船會社支局長ハ士官一名水兵十名木工長一名木工二名ヲ引率シテ發ニ在リ而シテ那古北條館山等ノ地ヲ巡視シ其海岸ノ深淺ヲ測量シ又其時ノ風潮ノ狀勢ヲ候察シテ陸軍諸兵ノ乘船場ヲ館山町ノ埠頭ニ撰定シ馬匹ノ搭載場ヲ同所見留川ノ左岸ニ定ム（第一圖）此兩所ニハ運送船旗ヲ掲ケリ又陸兵ノ脚船ニ充ルカ爲メ左ノ漁舟ヲ募集セリ但シ馬船ハ運送船ニ搭載シ來リ碇泊ノ後之ヲ下シ組立ツルノ法ニ定メタリ

小形漁舟四十艘每舟水手二人

軍荷運送押送リ船二艘每舟水手四人

敵地上陸用大形手操船十艘每舟水手二人

馬匹搭載場棧橋ノ狀ハ沙濱ニ土豚ヲ以テ長サ十八尺ノ基脚ヲ築設シ之ニ板材ヲ並置シ基脚ノ前方ナル海中ニ一漁舟ヲ泛ヘ古船ノ底板ヲ以テ假橋ヲ架シ浮舟ト基脚上ト馬舟トノ通路トナセリ而シテ之ニ使用セル木材ハ一時ノ賃借物ニ係ルヲ以テ之ヲ伐斷スル等ノコトナク綱繩ヲ以テ固ク縛着セリ(第三圖)該工事ハ廿五名ノ人員ヲ以テ十八分時間ニ竣工シタリ

支局長ハ陸軍諸兵ノ北條館山等ニ着營スルヤ陸軍指揮官ト商リ陸兵ノ便宜ト運送船ノ形狀ヲ酌量シ且ツ近海ヲ渡航スルモノト假定シ各船搭載人員ノ乘船順序整列ノ時刻等ヲ定メ支局士官ヲ大隊副官ト同伴セシメ館山町ノ海濱ニ於テ各大隊ノ整列地ヲ撰定シ以テ之ニ一番二番三番大隊聯隊本部馬匹乘船場等ト記シタル木標ヲ建設シ且大隊副官ニ勸告シ運送船ニ先乘シテ乘組海軍士官ト協議シ船內ノ區畫等ヲ處理セシメタリ(馬船ハ第二圖ノ如シ)

運送船幷搭載物件ノ大別

相摸丸總噸數千七百三十八　第一大隊　屬員若干
肥後丸總噸數千三百二十三　第二大隊　聯隊本部員
　　第三大隊　附屬軍荷
　　屬員若干　附屬軍荷
　　軍馬九頭

陸兵運送ノ爲メ新ニ船內ニ搆造セシモノハ兵卒小銃架及ヒ索梯等ナリ兵卒ハ一個ヲ二人ニ充ルトシ運送船ノ各舷ニ各一個ヲ設置シ小銃架ハ肥後丸ニ十七個相摸丸ニ三十三個每架二十四ヲ具フ索梯ハ各船ニ八個宛ヲ降架セリ

相摸丸人馬乘組表

兵種	上長官	士官	下士	兵卒	軍屬	人夫	計	軍馬
歩兵	四	四四	九五	八二九	二〇	五	一〇〇七	九

備考
第二聯隊第一大隊總計五百九人
仝第三大隊總計　四百九十八
仝第一大隊附軍馬　二頭
仝第三大隊附軍馬　仝
仝本部附軍馬　三頭
仝第二大隊附軍馬　二頭
右ノ外臨時乘船員幷物件ハ左ノ如シ
見學人　八名
脚舟水手　八名
馬舟水手　四名
馬船　二隻
脚舟　四隻

相摸丸兵器彈藥輜重積載表

物件名稱	員數	量目
彈藥	二萬四千八百發	百二十一貫目
車輛		
輜重荷物	六十四個	五百十二貫目
量目合計	二萬四千八百六十四個	六百三十三貫目

備考

肥後丸人馬積載表

兵種	上長官	士官	下士	兵卒	軍屬	人夫	計	軍馬
歩兵	四	二六	五二	四〇〇	一九	〇	五〇一	〇

備考
第二聯隊第二大隊總計四百九十四人
仝本部總計　三十八
兵站本部總計　九人
右ノ外搭載人員物件ハ左ノ如シ

聯隊本部人員表

隊名	上長官	士官	下士	兵卒	馬丁僕	計	軍馬	考	
								見學人	七人
								脚舟水手	十二人
								手操り船	六隻
第二聯隊	一	四	四	六	二二	一九	二		
重病室	ノ一	一〇							
計	二	四	四	五	一四	三二	三		

肥後丸兵器彈藥輜重積載表

物件名稱	員數	量目
彈藥		
車輛		
輜重荷物	九十個	三百二十五貫六百目

量目合計 九十個 三百二十五貫六百目

備考

兩運送船ニ搭載シタル人員ト其噸數トヲ比較スルニハ固ヨリ遠航海ニ適スルモノニアラス今兩船中人員ノ占領シタル場所ノ平方尺ヲ毎員ニ配スルニハ左ノ如シ

相撲丸

搭載場所	平方積	兵員	一員ノ平方積
前二甲板	七九九	一中隊百十四人	七尺
中二甲板	九七八	二中隊二百三十人	四尺、二
中下艙	一一九〇	一中隊ト屬員百三十人	九尺、一
後二甲板	一五〇八	二中隊二百二十六人	六尺、六
後下艙	一六二〇	二中隊ト屬員二百四十七人	六尺、五

肥後丸

搭載ノ場所	平方積	兵員	一員ノ平方積
前ニ甲板	二三七〇	二中隊ト屬員二百四十七人	九尺、五
前下艙	一一七〇	二中隊二百十七人	五尺、二

三月七日陸兵乘船ノ景況

午前九時雇役ノ脚舟四十隻乘船場ニ集艤ス水手毎隻ニ二人アリ總脚舟中二十五隻ハ青旗ヲ植テ十五隻ハ赤旗ヲ植テタリ又相摸丸ノ後檣ニハ青旗ヲ揭ケ肥後丸ニハ赤旗ヲ揭ケ以テ兵員脚舟ノ向フ所ヲ判別セリ十二時陸軍諸兵乘船場ニ來集縱隊中隊ノ橫隊ニ位置シ其近傍ニハ步哨ヲ配布ス一時乘船準備整頓脚舟ヲシテ其舳ヲ砂濱ニ乘セ上ケシメ且之ニ通路板ヲ架シテ乘舟ニ便ニス各大隊ハ其第四中隊ノ後尾ヨリ順次ニ脚舟ノ容積ニ應スル定員ヲ之ニ移乘シ每舟ニ士官或ハ下士官ヲ附シテ監視セシム大隊長ハ第一ニ乘船スヘキ中隊ノ先頭ニ各中隊長ハ其中隊ノ先頭ト共ニ乘船ス脚舟ハ逐次ニ本船ニ向テ海岸ヲ離シ各急漕シテ本船ニ至リ兵員ノ渡船終ルヤ直ニ歸來ス各隊ハ先頭ノ乘舟スルニ隨テ斷エス沙濱ニ近ク進ミ陸續トシテ乘舟ヲ終レリ此時二時十九分肥後丸ニ向フモノハ一時、二時十九分ニテ乘舟ヲ終ル一ナリ相摸肥後ノ二船ニハ各艙門四個ニ索梯ヲ降架シ此八個ノ索梯ト二個ノ舷門梯ニ依テ兵卒ヲ乘船セシメ士官下士之ヲ監視ス陸兵ハ能ク乘組士官ノ勤告ニ應シ豫定ノ規則ヲ犯セシモノナク乘船ノ順序整頓シ船中兵卒ノ起居靜肅ニシテ少モ雜沓等ノコトナク總兵ノ登船ヲ終リシハ相摸丸午後二時三十分肥後丸ハ仝二時十一分ニシテ乘船場ヨリ運送船迄ノ距離ハ三錨索（六百ヤード）ニシテ本日天氣晴朗海上ハ頗ル靜穩ナリキ

乘船時間表

隊名	人員	脚舟數	脚舟ニ乘始タル時刻	脚舟乘移リ時間	運送船ニ乘移リ終タル時間	乘船總時間	記事
第一大隊	五〇九	二五	午後一時五分	四十分間	午後一時五十六分	五十一分間	脚舟ハ廿數及大小ヲ人員ニ比較シ相均シクセシモノナリ第三大
第三大隊	四九〇		仝一時十四分	一時五分間	仝二時三十分	一時十六分間	
			仝二時十九分				
			午後一時四十五分				

右平均	四九九、五		仝 一時八分半	仝 二時二分	仝 五十二分、五厘	仝 二時十三分	一時三分、五厘	隊ノ多ク時ヲ費セシハ脚舟ヲ先ツ第一大隊ニ多ク用ヒシニ依ル
第二大隊聯隊本部	五二二	一五	午後 一時十分	午後 一時五十六分	四十一分間	午後 二時十一分	一時一分間	
總平均	五〇六、三三		仝 一時九分六六	仝 二時〇分	四十八分六六間	仝 二時十二分三三	一時四分三三	

第一大隊ノ各中隊乘舟時間表

隊名	時間	記事
第四中隊	四分時	廿五隻ノ脚舟ヲ要シ得ヘキ丈之ヲ專用セシヲ以テ特ニ速カナリ
第三中隊	十六分時間	脚舟多シ第四中隊ノ爲ニ出シ其歸ルヲ待ツカ爲メニ多ク時間ヲ費ヤセリ
第二中隊	九分時間	歸來ノ脚舟逐次增加セシヲ以テ漸ク速カナリ
第一中隊	六分時間	歸來ノ脚舟益々多キヲ加ヘ倍々速カナリ
時間合計	三十五分時間	此時間ヲ前表第一大隊ノ乘舟時間ニ比スルニ五分間ノ差アリ是中隊ト中隊トノ間ニ僅ニ乘舟ノ斷絕セシモノアルニ因ル

脚舟ノ往復時幷兵員ノ登船時間

船名	兵員登舟幷脚舟ヲ潤キ出ス迄ニ費ス時間	兵員運送船ニ登ルニ費シタル時間	脚舟ノ運送船ヘ往復ノ時間	一兵登船即チ梯梯ヲ登ル時間	總時間
相摸	二分廿三秒時	三分七秒時	三十分廿秒時	十一秒時	三十六分十秒時
肥後	二分時	二分時	十八分五十六秒時	九秒二二時	廿二分五十六秒時

備考：相摸丸ニハ脚舟多クシテ且肥後丸ノモノヨリ大形ナリ故ニ運送船下ニ混雜ヲ生セシト其重キトニ由テ多ク時間ヲ費スノミナラス其梯梯亦長キカ故ニ隨テ兵卒ノ登船時間亦多時ナリ

各運送船ニハ上甲板及ヒ艙門ヨリ索梯ヲ降架シアリシモ大ニ其用ヲ爲サシムルニ至ラス僅カニ艙門ノ索梯ハ二三脚舟ノ兵員之ニ依テ登船セシモノアリシモ其登船時間ハ梯梯ニ依ルモノニ比スレハ大ニ長フシテ平均十三人ノ登船時間ハ三分三十秒ニシテ一人十六秒餘時ヲ費ヤセリ

軍馬登載ノ景況

馬欄及ヒ馬帶ハ東京鎭臺ニテ製造ノモノ全ク海軍ニテ製造應用セン

ト欲セシモノト其意匠相投合セシヲ以テ別ニ製造スルヲナク鎮臺製造ノモノヲ使用シタリ圖ト參看シ看馬欄ハ傳馬船二隻ヲ聯合シ上ニ板張リ及ヒ木欄ヲ設ケ欄内ヲ四區ニ分チ一時ニ軍馬四頭ヲ運搬スルニ供セリ此馬船ハ相摸丸ニ搭載シ來リ碇泊ノ後之ヲ下シ木欄及ヒ板張リヲ附着シテ馬匹搭載場ニ送ル其距離ハ五錨索(一千ヤード)ナリ

七日正午十二時馬船ノ準備ヲ始メ零時四十分ニ終ル是ヨリ軍馬四頭ヲ搭載シ相摸丸ニ向テ砂濱ヲ離シタルハ一時二十分ナリ而シテ軍馬九頭ノ内最後唯一頭ヲ搭載シテ本船ニ送リ其搭載ヲ終リタルハ三時廿五分ナリ

軍馬ノ積出シ幷搭載時間表

回次	馬數	積載ヲ始メタル時刻	積載ノ時間	拽キ舟ニテ往キ或ハ往復時間	本船ニ達シタル時刻	船側ニテ待合セ時間	搭載ヲ始メタル時刻	搭載ヲ終リタル時刻	搭載ノ時間	合計時間
第一回	四頭	零時四十分	四十四分間	五分間	一時廿九分	九分間	一時三十八分	一時四十六分	八分間	一時六分間
第二回	四頭	一時五十分	廿四分間	九分間	二時十九分	四分間	二時廿三分	二時三十分	七分間	四十四分間
第三回	一頭	二時三十五分	四十分間	九分間	三時十九分	三分間	三時廿二分	三時廿五分	三分間	五十五分間
合計	九頭		一時四十八分間	廿三分間						
備考	馬船ノ搭載時間多キハ馬帶ヲ掛ル最後ノ一馬ニ多ク時ヲ費ヤシタルナリ				掛ルニ多ク時間ヲ費ヤセシニ因ル					

第一日(三月八日)演習戰況

南軍ハ房州館山灣ニ集艤シ三月七日午後四時偵察船ヲ三浦半島ノ要地ニ派遣ス偵察司令ハ劍崎近傍ニテ日沒ヲ待ヤ黒夜北軍ノ誰何スルモノナキニ乘シテ金田灣ニ侵入シ沿岸ノ形狀敵兵ノ守備ヲ密察シ且ツ探海法ヲ以テ布設ノ氷雷ヲ撈索スルニ一ツモ之ヲ得ルコトナシ乃チ轉シテ鴨居村ニ進ミ浦賀港口及ヒ砲臺下ヲ撈索ス此地方海草繁茂シ本船ノ運轉頗ル澁滯シ探海索モ亦屢々纏結ス遂ニ一電纜ヲモ撿出セサリシ復命時期ニ迫ルヲ以テ退行ス南軍艦隊ノ第二小隊艦ハ仝夜零時三十分金田灣ニ向テ館山ヲ發シ其第一小隊艦及ヒ運送船ハ二時三十分ニ發艦仝ク金田灣ニ向ヒ進ミ四時三十分各隊金田沖豫定ノ海上

ニ（觀音崎燈臺ヲ北北東劍崎燈臺ヲ西南西ニ見ル）會合ス此時偵察船モ亦鴨居村ヨリ復命ス司令官ハ拂曉ヲ待テ諸艦船ヲ齊シク進航セシメ六時三十分ニ至リテ戰鬪準備ヲ令ス仝四十八分始メテ砲擊ヲ開キ敵狀ヲ偵察ス運送船ハ遠ク彈達外ニ漂泊セリ第一小隊ノ各艦ハ旗艦ノ通路ヲ進ミ第二小隊艦ハ其嚮導艦丁卯ノ過路ヲ進ム此時風力五或ハ六ノ間ニアリ其航路逆風ニ向フカ爲メ第二小隊各艦ノ駛走大ニ遲緩シ發砲ノ地ニ達スルニ數時間ヲ費セリ第一小隊ノ各艦ハ回轉獨立打方ヲナシテ金田村方位ヨリ上宮田村方位ニ航進シ猛烈ノ砲火ヲ所在ノ守兵ニ蒙ラシム其擧動恰モ北軍ヲシテ南軍上陸ノ地點ヲ窺察シ能ハシメサルヿヲ勤ムル如シ第二小隊ノ各艦ハ陸地ニ向ヒ直行シテ止マス七時三十八分丁卯艦發砲ヲ始ム八時七分雷電千代田形ノ二艦漸ク適宜ノ射距離ニ進ミ各艦獨立打方ヲ以テ菊名上宮田村ノ敵兵ヲ砲擊シ益進テ機砲霰彈等ヲ發射ス第一小隊ノ各艦ハ是ヨリ先キ二回ノ回轉操リ打ヲ施シ三回次ハ速力ヲ減シテ其打方ヲ連續シ八時三十分ヨリ逐次ニ投錨砲擊セ

リ九時五十分司令官ハ陸戰隊準備ヲ命シ續キテ第一小隊ノ各艦ニ起錨セシメ數錨索陸地ニ近接シ又直ニ碇泊セシム九時五十分陸戰隊ニ上陸ヲ命ス十時五十分諸艦ノ陸戰隊ハ旗艦ノ側ニ集艤シ艇隊ハ二列縱隊ニテ城ケ山ニ向進ス此時第一小隊ノ各艦ハ碇止砲擊ヲナシ第二小隊ノ各艦ハ沿岸ニ駛航砲擊シ共ニ陸戰隊前方ノ山上及ヒ其左右傍側等ニ猛烈ノ砲火ヲ施セリ陸戰隊ハ海岸ヲ離ルヿ六百（ヤード）ノ海上ニ於テ横列トナリ其距離凡ソ三百（ヤード）ナリシヰ二番小隊放火ヲ始メ一番小隊ハ突進シテ着岸シ其半小隊ハ城ケ山ニ向ヒ其中央ヨリ右方ニ散開シ他ノ半小隊ハ援隊トナリテ右側後方ニアリ二番小隊ハ仝山ニ向ヒ仝シク左方ニ散開シ其一分隊ハ左側後方ニアリテ援隊タリ陸戰隊司令ハ旗號通信ヲ以テ本艦ト相應シ各隊ハ瞬速ノ擧動ト猛烈ノ放火ヲ以テ敵兵ヲ斥逐シ仍ホ本艦ノ掩護ニ藉テ進ンテ城ケ山ニ迫リ終ニ山上ヲ奪略シテ之ニ據リ信號旗竿ヲ其北東ノ隅角ニ植テ嚴ニ此要地ヲ死守シ以テ棧橋ノ架設陸兵ノ上陸ヲ掩護セリ上陸場司令ハ十時

七分棧橋架設ノ命ヲ得テ部下四十三名ノ兵員ヲ率ヰ敵兵ノ退去ニ乘シテ十馬力船ヨリ上陸シ十時三十分其作業ヲ始メ幅四尺長サ十六間ノ棧橋ヲ十八分時間ニ架設セリ(第五圖)北軍ハ歩兵一中隊ヲ金田村ニ同二中隊ヲ菊名及ヒ上宮田村海岸ニ同一中隊ト砲兵一大隊ヲ菊名村ノ臺上ニ配備シテ此ニ敵ヲ待ツコト久シ會々敵火發スルニ至テ其距離遠キト銃砲ノ勢力比較セサルヲ量ルカ爲メニ之ニ應セス唯敵兵上陸ノ機ニ臨ミ突然之ヲ掩撃センノ策ニアリ陸戰隊ノ岸汀ニ迫ルニ及テヤ之ニ對シテ頗ル防戰ニ盡力シタルモ忽チ城ケ山ノ臺上ニ退轉シ尚ホ險要ニ據リ南軍艦砲ノ猛撃ヲ避ケテ却テ上陸兵ヲ我カ野砲火ノ下ニ困メンコトヲ計ルモノヽ如シ終ニ臺上ヲ數百(ヤード)退キ歩砲相助ケテ抗戰シ固ク敵兵ノ進撃ヲ扼止セリ是ヨリ先キ九時四十五分旗艦ハ運送船陸兵上陸準備ヲ令ス是ニ於テ相摸丸ハ陸地ヲ距ル七錨索ニ肥後丸同ク五錨索ニ碇泊シ共ニ脚舟端艇ヲ下シ其端艇皆合シテ肥後丸ノ側ニ輻輳ス脚舟十隻端艇四隻アリ十一時棧橋竣功ヲ告ク旗艦陸兵上陸ヲ令ス其順序肥後丸ノ鍬兵ヨリ始メ次ニ其第二大隊次ニ其第三大隊ナリ其方法タル艙門ヨリハ索梯ヲ架下シ此索梯及ヒ舷梯ニ下士ヲ配シテ監視セシメ舟艇ヲ其下ニ集メ各隊ハ其先頭ヨリ乘舟シ小蒸氣船ヲ以テ挽船ニ充テ脚舟及ヒ端艇數隻ヲ舳艫相聯ヲテ挽行セシム此日風濤怒勢威ヲ逞ウシテ舟行ニ逆ヒ爲メニ上陸ノ時間ヲ遷延ス此間陸戰隊ハ北軍歩砲ニ抗戰シ互ニ進退アリ南軍頗ル不利ノ景況ナリシモ午前第十一時三十分ヨリ該軍ノ歩兵續々增加シ突然北軍ノ側方ヲ衝撃スル等ノ擧アリ陸戰隊ハ漸次ニ之ニ防禦ノ地ヲ托シテ歸艦ス午後一時三十分止戰南軍艦隊ハ本艦軍裝ヲナシテ金田灣ヲ防備シ其陸兵ハ上宮田村ヨリ下宮田村ニ亘リ水田ニ臨ンテ前哨ヲ配置シ北軍ハ高圓坊村南端ノ高臺ニ據テ守備ヲ設ケタリ

南軍陸軍兵馬揚陸時間表

八　員上陸時間

搭載船名	歩兵第二聯隊	八　員	（本船ト陸地トノ距離ヤード）
肥後丸	第二大隊	五二二	一五〇〇
相摸丸	第三大隊	（四五四）	
	第一大隊	（四九六）五九〇	二一〇〇
合計	三大隊	一、四七二	

	脚舟端艇	（本日乗組シメタル各舟一回ノ乗員平均）	上陸始メシ時刻	上陸終リシ時刻	上陸ニ費シタル時間
肥後丸	一〇四	八三〇	十一時廿分	一時廿四分	二時四分
相摸丸	一〇四	八三〇	一時十五分	四時十五分	二時五十六分平均一大隊ニ一時廿八分
合計	一四				五時間

備考

天候ハ晴天逆風凡十三英里怒濤アリ舟艇切リニ艱揚ス

本船ニ搭載シタル脚舟ヲ下スニ十五分時間ヲ費ヤス

兵卒一人索梯ヨリ下ルニ平均時間肥後丸ハ廿四秒相摸丸ハ撿知セス

舷門楷梯ヨリ下ル時間ハ肥後丸ハ十二秒相摸丸ハ十六秒

軍馬揚陸時間

馬船	馬四ヲ端艇ニ搭載揚陸時間	
十一時四十五分卸方用意	運送船ヨリ端艇ニ積ミ込ミ時間	
一時〇分水面ニ下ス	端艇ヨリ揚陸セシムルニ費ヤシタル時間	
一時四十五分整頓	運送船ヨリ桟橋ニ至ル往復時間	
合計		

	第一回	第二回	第三回	第四回
四頭	十分	二十分	三十分	四十五分
四頭	八分	十八分	二十分	五十六分

此回ハ一頭ニシテ且荷物共ニ揚陸シ軍馬揚陸時トシテ算スルヲ得ス

桟橋架設法

此桟橋ハ海上ノ運搬ヲ便利ニシ（平日桟橋ノ臺幷板等ハ合ヒ印ヲ以テトス則第五圖ノ如シ）揚陸ノ後迅速ニ（疊ミ置キ入用ノ際組立仕用スルモノ）間毎ニ杉ノ四寸角ヲ以テ組立タル料六箇ヲ沈メ此内沖ノ分ハ小舟ニ（凡十八分以内ニ組立ルヲ主トス其法海底ニ）料ニ個ヲ乗セ之ヲ沈メ其内ニ砂嚢數個ヲ入レテ高波ノ爲メニ前後左右ノ動搖ヲ禦クモノトス之ヨリ海岸ニ及フモノハ砂嚢數個ヲ積上ケ料ノ代用トス而シテ該橋ノ臺ヲ並ヘ終ラハ松板ニテ長サ二間幅一尺厚サ一寸五分ノモノ四枚ヲ接合シ其裏ニ杉ノ三寸角三個ヲ置キ中央

弁両端トモ鐵釘ヲ以テ固メ則八枚同様ニ組立タル後前ニ設ケアル臺ニ乗セシメ「カスガイ」ヲ以テ臺ト共ニ之ヲ固メ波ノ爲メニ脫坐セサル豫防ヲナス

棧橋ノ架設ニ要スヘキ職員

職名	員數	記事
木工長	一名	
兵曹	二名	二名ニテ充分ナレドモ今般實施シタルトキハ三艦ヨリ集合シタル兵員ナルヲ以テ取締ノ爲メ各艦ヨリ一名ツヽヲ出シ三名ヲ用ヒタリ
水兵	三十名	
木工	十名	

十八分以内ニ架設セントスルニハ前記ノ人員ヨリ減少スルヿ能ハス

人員配置

兵曹二名水兵三十名ヲ二分シテ小舟二艘ニ乗ラシメ此二隻ノ船ヲ甲乙ニ分テ甲ノ舟ニ木工長幷ニ木工ヲ乗セ乙ノ舟ニハ殘ノ人員ヲ乗セ其他甲乙ノ舟ニ搭載スヘキ要品ハ第二表ノ如シ

甲船ニ乗リタル水兵上陸シテ直ニ石炭嚢ニ砂ヲ入レ木工ハ棧橋臺ニ用ユル料ヲ組立ツ

乙船ニ乗リタル水兵ハ組立タル棧橋臺ヲ海中ニ運ヒ寸法繩ヲ以テ臺ノ位置ヲ定メ（此業ニ水兵二名ヲ要ス）寸法繩ハ圖面ニ載スル後甲船ノ水兵ヨリ砂嚢ヲ受取リ海中ニ並ヘアル料ニ入ル此等ノ業終ラハ敷板ヲ臺ニ乗セ最尾ニ四間ノ棧橋ヲ增設スル爲メ小舟一艘ニ料二個ヲ乗セ之ヲ固着シタル後棧橋ノ前ニ竪ニ置キ之ニ砂ヲ詰メ且ツ水抜キノ栓ヲ脫シテ海底ニ沈メ前同樣ニ敷板ヲ乗セテ作ルモノトス第五圖ニ明載スル如シ

第一表

品目	員數	長サ	幅サ	厚サ	太サ
松板	三十二枚	二間	一尺	一寸五分	

第二表　甲船ニ乗組員幷積込品

品目	員數	記事
杉料	但四寸角ニテ作ル 六	個
杉三寸角	二十四本	四尺
カスガイ	百	本
鐵釘	仝	四寸
小舟	二	艘
石炭袋	四百	個
十納	十五	挺
玄納	一	挺
木槌	仝	
錨	二	挺 但七貫目位ノモノ
スパヌヤン	十	把
古繩	百	尋

敷板横木用

第二表　乙船ニ乗組員幷積込品

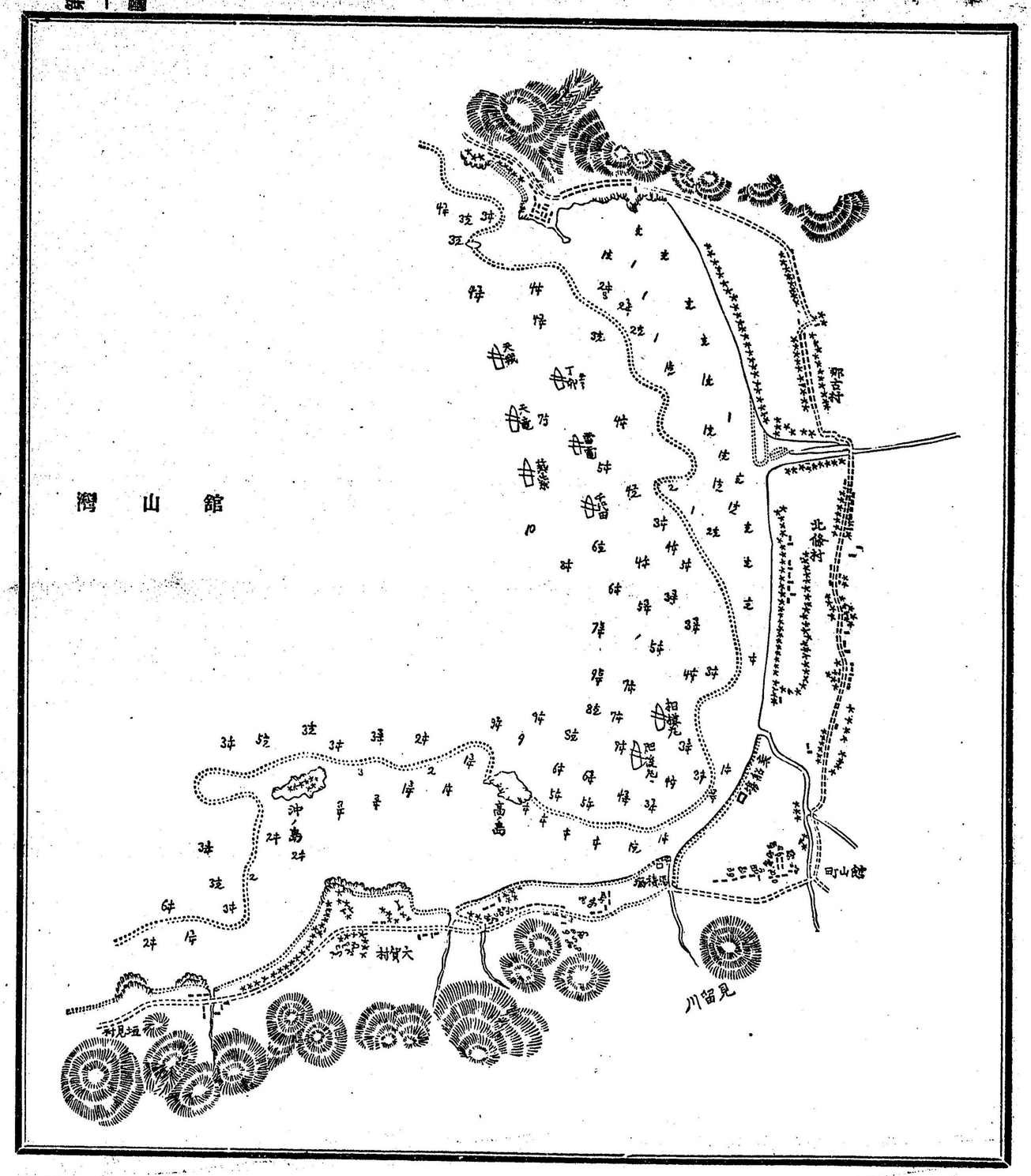
人員品目	員數	記事
准士官以上	二名	内一名甲船ハ乙船ヨリ先ニ乗出スヲ以テ品物積込等ハ乙船ノ者モ共ニ補助スルモノトス
木工長	一名	
兵曹	一名	
水兵	十五名	
木工	十名	
棧橋料	六個	此品ハ海中ニ投シテ曳キ行クモノトス
石炭袋	二百個	
十納	十五挺	
カスガイ	百本	
鐵釘	仝	
木槌	一挺	
玄納	一挺	

人員品目	員數	記事
准士官以上	二人	
兵曹	一人	
水兵	十五人	
棧橋敷板	不殘	此品ハ海中ニ投シテ曳キ行クモノトス
仝横木	仝	右同
石炭袋	二百個	
古繩	不殘	
錨	二挺	
スパヌヤン	不殘	

木工携帶品

品目	員數	記事	品目	員數	記事
玄納	一挺	但水兵木工共武器ヲ携帶スルモノトス	鋸一尺二寸位ノモノ	一挺	
鍔鑿	仝		斧	仝	
丁刀ナ	仝				

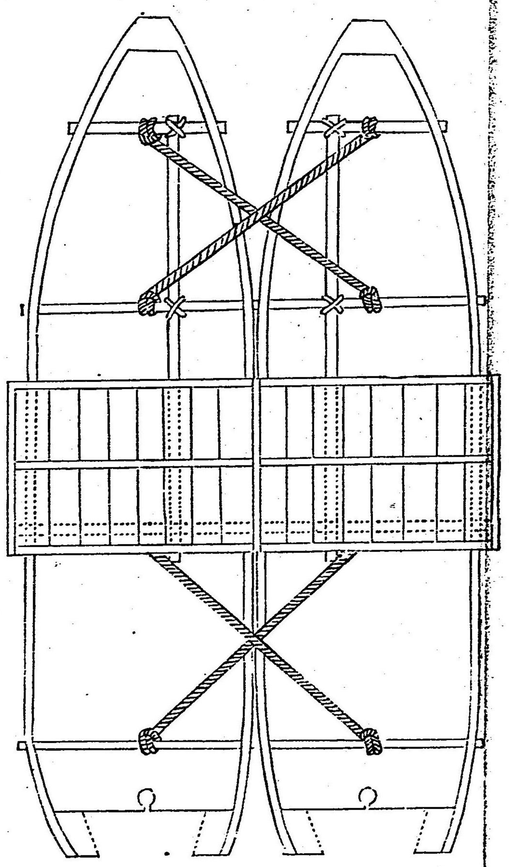
第 1 圖



柱　四寸五分角
臺　六　寸　角
板ノ厚一寸二分松

船ノ種類「テンマ」
船ノ長サ大略五間半

船外ニ兩側三寸ツヽ出ル



「ヰンチ」ノ「マニラロープ」ヲ以テ兩舷及馬欄ノ臺木ヲ縛着ス

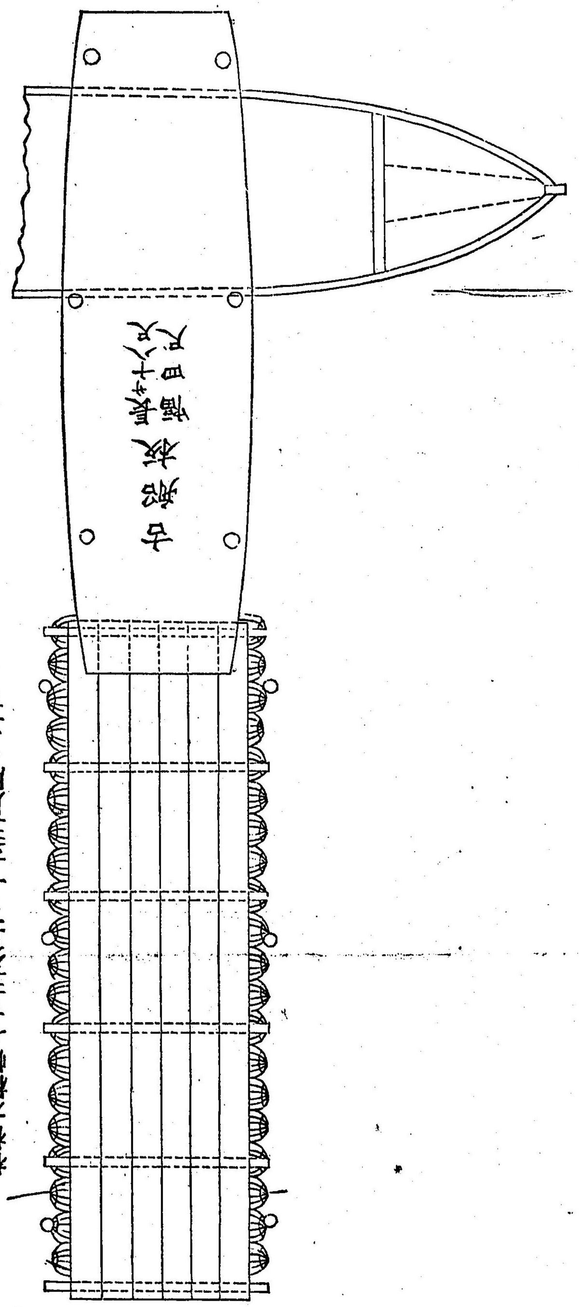
第 111 圖

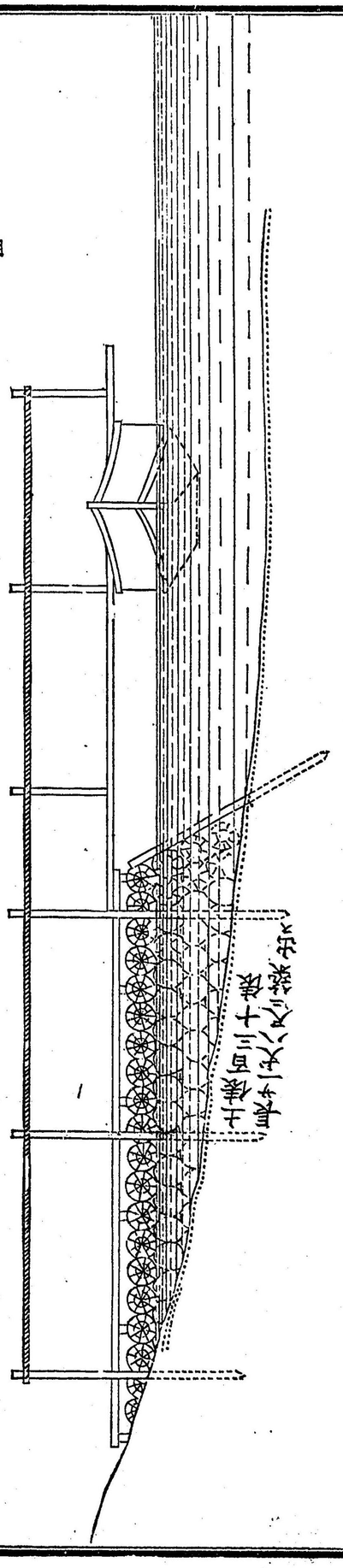
舘山ニ於テ馬匹乘船用棧橋

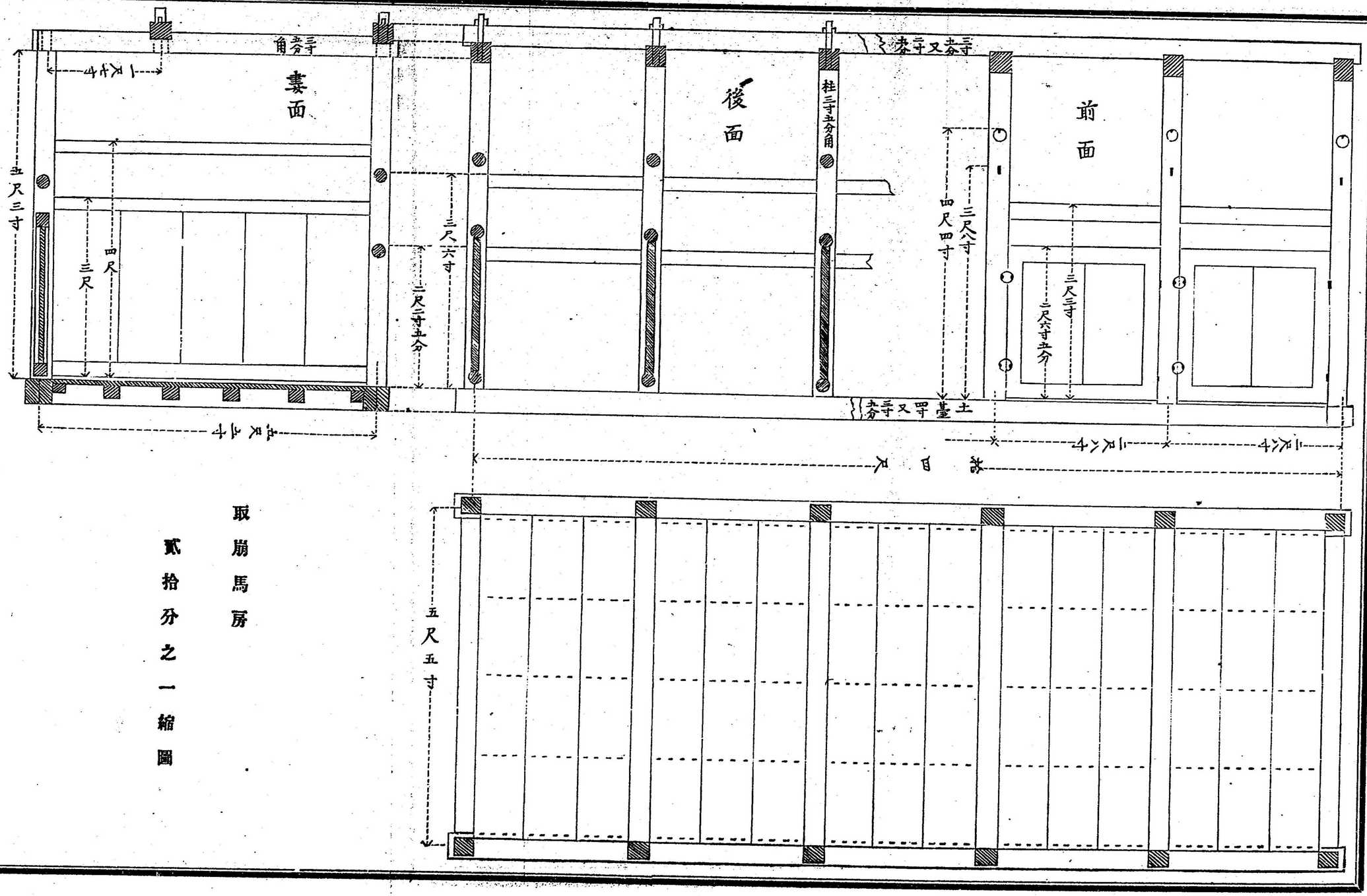
棧橋總長サ三十六尺

海岸ヨリ三十六尺ノ所ニテ乾潮ノ深サ一尺五六寸位

棧橋ハ都テカスガイ等ヲ用ヒズ繩ヲ以テ固縛ス



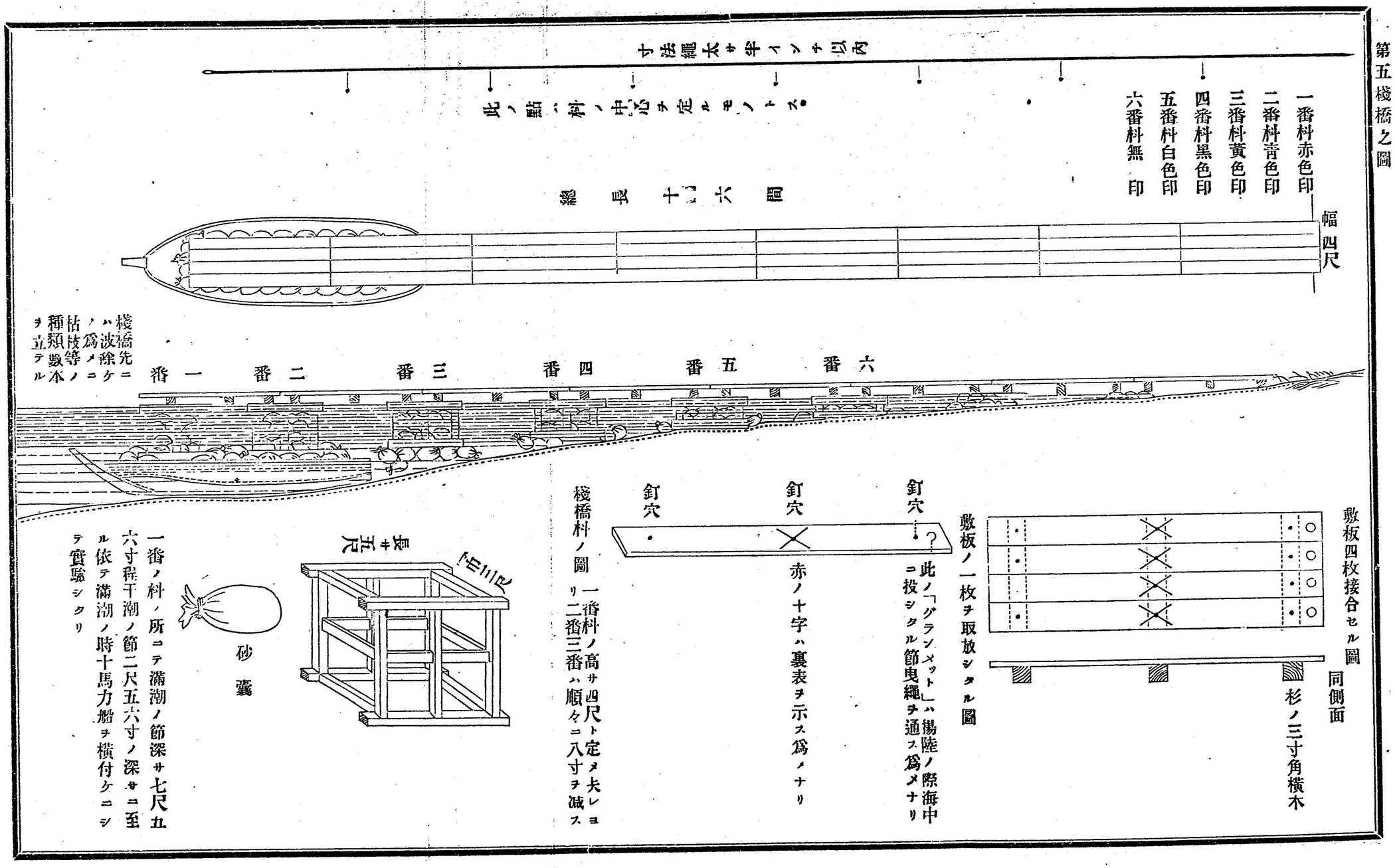




取崩馬房

貳拾分之一縮圖

第五棧橋之圖



寸法繩太サ半インチ以内
此ノ點ハ柱ノ中心ヲ定ルモノトス
一番料赤色印
二番料青色印
三番料黃色印
四番料黑色印
五番料白色印
六番料無　印
總長十[illegible]六間
幅四尺
棧橋先ニハ波除ケノ爲メニ枯枝等ノ種類數本ヲ立テル
一番
二番
三番
四番
五番
六番
敷板四枚接合セル圖
同側面
杉ノ三寸角横木
敷板ノ一枚ヲ取放シタル圖
釘穴
此ノ「グランメット」ハ揚陸ノ際海中ニ投シタル節曳繩ヲ通ス爲メナリ
釘穴
赤ノ十字ハ裏表ヲ示ス爲メナリ
釘穴
棧橋料ノ圖
一番料ノ高サ四尺ト定メ夫レヨリ二番三番ハ順々ニ八寸ヲ減ス
長サ五尺
砂囊
一番ノ料ノ所ニテ滿潮ノ節深サ七尺五六寸程干潮ノ節二尺五六寸ノ深サニ至ル依テ滿潮ノ時十馬力船ヲ横付ケニシテ實驗シタリ

訓示

一南軍艦隊ハ務メテ實戰ニ摸擬スヘキノ敎旨ニ循テ其戰鬪準備ノ如キハ本式ヲ行フヘキモノナルニ略式ヲ施行セシハ不當ノ處置ナリトス又館山灣ニ碇泊スルノ位置少シク錯雜ス其第一小隊ノ三番艦其位置甚タ違ヒタルヲ改メサルハ不可ナリ又運送船ノ入港ヲ視テ其碇泊位置ヲ之ニ示スコトナク其乘組士官ノ來テ尋問スルニ及ヒ之ニ指令シタル位置ハ艦隊ト隔絶シテ首尾全カラス若シ敵艦潛入襲撃ニ遭遇セハ何ヲ以テ之ヲ保護セントスルヤ夜陰部下各艦ヲ軍裝シ且牛若丸ヲ以テ對岸ノ敵地ヲ偵察シ傍ラ灣外ニ警備セシ擧動ト相矛盾スル者ト云フヘシ

一馬船ノ措置ニ至リテハ大抵不可ナキモ馬ヲ搭載スルニハ馬船ヲ橫斷シテ之ヲ置カンヨリモ寧ロ馬船ノ縱形ニ從テ之ヲ積載スル如ク設備スルノ愈レルニ若カス何トナレハ馬船ハ本船ト全方向ニ並ヘサルヲ得サルカ故ニ馬頭(若シ背向スレハ馬臀)常ニ船舷ノ鐵板ニ對

スルヲ以テ吊擧ノ際其頭(臀)ヲ舷側ニ衝觸スルノ患アリ又馬船上ニハ務メテ多ク馬欄ヲ設ケ靜波ノ時ニハ大ニ馬數ヲ增載スルヲ得ルノ便ヲ圖ルヲ亘トス

一運送船ハ近海航行ノモノト假定スルヲ以テ其船內計畫ニ於テハ概ネ整頓セリト云フヘク其假小銃架梯共ニ適宜ナリトス但兵則ハ構造甚タ粗ニシテ館山ニ於テ修繕ヲ要スルニ至レリ其位置ニ至リテハ適宜ナリトス若シ其位置ヲ之ヨリ低下ナラシムルヤハ掀簸動搖甚シキヤ遂ニ供用ニ便ナラサラシムルニ至レハナリ

一馬匹ヲ馬船ヨリ船內ニ移スニハ(デリツク)ノ頭ヲ充分舷外ニ出シ舷側ニハ(マツト)ヲ降下シ(デリツク)ヲ出入シテ馬ヲ搭載セハ馬體ヲ舷側ニ衝當セシメス縱令之アルニ(マツト)ニ觸ルレハ馬ヲ傷ル等ノ患ヒナカルヘキニ此等ノ設ナキカ爲メ馬ヲ驚駭セシメシハ宜シキヲ得サリシ

一館山灣ノ乘船場ハ風潮ノ景狀ヲ候察シ海岸ノ淺深ヲ探測シテ最モ

海岸ノ深キ所ヲ撰定セシハ可ナリ其棧橋モ臨機ノ計畫宜シキヲ得タルモノトス唯第一第三大隊ハ仝時ニ乘舟ヲ始ムヘキモノナリヤヲ豫メ部隊長ニ勸告セサリシヲ以テ第三大隊ノ猶豫シテ大ニ乘船時間ヲ遷延セシメタルハ一小失ナリトス

一菊名村ノ回轉獨立打方ハ敵ヲシテ上陸點ヲ窺察セシメサルヲ勉メタル如クナレトモ其轉回ノ圈面ハ僅ニ金田村ヨリ上宮田村ノ間ニ過キスシテ敵ヲシテ遠ク其兵力ヲ一方ニ分タシメ菊名村上陸點ノ防禦ナシテ薄弱ナラシムルノ策ニアラストス何トナレハ艦隊ノ砲擊猛烈ナルノ間ハ敵兵ハ深ク潛伏シテ偏ニ上陸ノ時機ヲ待ツノ外策ナカルヘレケレハ或ハ敵兵此策ニ欺カレテ金田村ニ兵ヲ分ツヲアリトスルモ金田菊名間ノ距離ハ半里ニ過キサレハ上陸艇菊名村ニ向フヲ見ハ直ニ歸來シテ其守兵ニ應援スルノ時機ニ後レサルヘシ故ニ艦隊ハ第一小隊ヲ以テ回轉打方ニテ敢狀ヲ探リ敵兵若シ應セサルトキハ上陸點近傍ニテ敵兵ノ潛伏ニ適スル遮蔽物ヲ砲擊破壞ス

ルヲ勉ムヘキナリ然ルニ策此ニ出スシテ第二小隊ノ各艦モ亦回轉操打ヲ施行セシハ頗ル其當ヲ失セリトス獨リ千代田形艦ノ始終海岸ニ接シテ離レス敵巢ヲ砲撃セシハ其當ヲ得タリトスヘシ

一病院旗ヲ掲ケタル牛若丸ヲ始メヨリ菊名村海岸ニ碇泊セシメシハ可ナラス上陸場司令船ノ如シ艦隊ノ後方ニ在ラシムルヲ適當トス

一旗艦ヨリ運送船ニ命令スルニ周密ナラス其上陸場ニ近ツクヤ其碇泊位置ヲ明示セサルヲ以テ運送船ハ各自ニ碇泊シ其海岸ヲ隔ルヿ遠キニ因テ上陸ヲ遷延セシメタリ抑モ運送船其他ノ碇泊場ハ豫メ海圖上ニ於テ按定シ之ヲ命令シ置クヲ可トス

一上陸兵ノ端舟ハ投錨シテ海岸ヨリ離レ陸上ニハ(ショアライン)ヲ以テ繋留スルヲ通則トス然ルニ菊名村海岸ニ陸戰隊ノ端舟ヲ膠泊セシメシハ過レリトス

一第二小隊ノ各艦陸戰隊ヲ掩護ノ爲メ運轉シテ砲撃セシ擧動ハ其當ヲ得タリ

一上陸隊ノ擧動ハ練習日尚ホ淺キニ比スレハ概スルニ活潑ニメ不可ナキナリ然レトモ端艇ヨリ上陸ノ際直ニ散開セス敵ヲ背後ニ置テ岸上ニ整列セントセシハ戰理ニ戻ルノ最モ甚タシキモノナリ若シ陸戰隊司令ノ速ニ之ヲ叱正セシヿ無ラメンニハ其覆沒スルヿヤ蓋シ免レサル可シ又其細狀ヲ見レハ小隊長先導官儀導等ノ指揮充分ナラス照尺ノ整備ニ心ヲ用ヒス距離ノ測定命令等適當ナラス又陸兵トス變代シ退艦ノ途上ニテ行進喇叭譜ヲ吹奏セシメシハ戰鬪間無用ノ聲音ヲ禁スルノ理ニ違フモノナリ

一機橋ハ地形ト風潮トヲ候察シテ其計畫ヲ定メ事ニ臨ミテ速ニ設置シタルハ可ナリ但舶刀拳銃ヲ一定ノ位置ニ置カシメス之ヲ携帶シテ水中ノ作業ニ從事セシメシハ不可ナリ

第二日(三月九日)

南軍

海軍

艦隊司令官部署命令

敵ハ高圓坊及ヒ津久井村ニ向テ退却シ且ツ兵員ヲ増加スルモノヽ如シ依テ陸軍諸兵指揮官兒玉歩兵大佐ト謀議シ左ノ部署ヲ定ム

今夜牛若丸ヲ觀音崎沿海ニ派シ敵狀ヲ偵察セシメ而シテ明九日午前六時天龍筑紫天城丁卯ノ四艦ヲ引率シ進ンテ該砲臺ヲ攻撃シ敵ノ兵力ヲ其方面ニ分ヲ我陸軍攻撃ノ目的ヲ達セシメントス

同日午後五時ヲ期シ四艦共ニ當灣ニ皈港スヘシ

雷電艦長ニ下ス命令

我陸軍第三大隊ハ明九日午前第六時ヨリ下宮田村北方一帶ノ高地ヲ占領センカ爲メ進撃スルヲ以テ其第一大隊ハ高圓坊ノ高地ヲ盧撃シ敵ノ兵力ヲ上宮田村ニ分タシムル故ニ其官ハ千代田形艦ヲ引率シ時機ヲ失ハス上宮田村以北ノ沿岸ヲ砲撃シ海陸力ヲ戰セ第二大隊ノ本攻ヲ容易ナラシムルヲ力ムヘシ

明治十八年三月五日於金田灣天城艦

甫軍小艦隊司令官

海軍大佐相浦紀道

第二日(三月九日)演習戰況

南軍ハ天城天龍筑紫丁卯ノ四艦ヲ以テ觀音崎方面ヲ侵襲シテ敵ノ兵力ヲ其方面ニ分タシムルヲ勉メ又歩兵第三聯隊第三大隊及ヒ第二次隊ヲシテ先ツ下宮田村北方ノ高地ヲ占據セシメン爲メ其第一大隊ヲシテ高圓坊村ヲ盧撃セシメ敵ノ兵力ヲ分ヶ且ツ雷電千代田形ノ二艦ヲ分遣シテ上宮田村以北ノ地ヲ攻撃セシムルヲ是本攻ヲ容易ナラシムル目的ニ在ルヲ以テ海陸軍合併圖而シテ午前第六時各守地ヲ發シ艦隊ハ觀音崎ニ向ヒ進ミ雷電千代田形二艦ハ津久井村長澤村兩村ノ海岸ヲ巡航シ歩兵ハ高圓坊村ノ方位ニ進ム六時四十五分千代田形艦北軍ノ左翼ヲ長澤村ニ見テ発撃ヲ始ム次テ雷電艦ヨリ敵兵長澤村ニ見

ハルヽヲ認メ千代田形ト共ニ之ヲ砲撃ス八時三十分南北ノ陸兵ハ高圓坊ニ會戰シ南軍ノ歩兵ハ終ニ高圓坊村及ヒ東方ノ高地ヲ占領シ北軍ハ須輕谷村ニ退却シ其狹隘ヲ扼ス時ニ艦隊ノ陸上信號隊ハ其旗竿ヲ高圓坊村ニ植テ艦隊ト照應シ其砲撃點ヲ指示ス雷電千代田形ノ二艦ハ之ニ應シテ最モ猛烈ノ砲撃ヲナス是ヨリ先キ七時艦隊ハ單縱列ニテ觀音崎ヲ距ル二千五百米突ノ洋面ニ達シ未タ砲火ヲ開始セス北軍第四砲臺ヨリ砲撃ヲ始メ天城艦先ツ之ニ應シ須臾ニシテ諸艦齊シク回轉操打ヲ以テ第三第四砲臺ヲ攻撃シ續々四回ノ回轉ヲナシ九時十分進テ第一砲臺ニ迫ル第二丁卯艦ハ先ニ「アシカ」島以内ノ洋面ヲ過キテ陸地ニ近キ鴨居砲臺ノ側面ヲ攻撃シ間々機砲ヲ發射ス北軍銃火ヲ以テ之ニ應ス既ニシテ諸艦又齊シク第一砲臺攻撃ヲ始メ五百ヨリ三百米突ノ距離ニ於テ回轉シ砲撃銃射銃ハ諸典砲ニ擬ス砲臺ヲ壞滅セントスルヿ二回ニシテ尚進入シテ第二砲臺ヲ猛襲砲撃ス北軍ハ砲火ヲ以テ間々之ニ應シ距離近キニ及ヘハ銃火ヲ施シ艦隊ヲ掃攘センヿヲ勉ム

九時二十五分演習ヲ中止シ艦隊ハ金田灣ニ退航セシム又高圓坊ノ兩軍陸兵ハ互ニ進退アリ午前十一時止戰南軍ハ右翼ヲ金田灣海岸ニ托シ艦隊之ニ碇泊シ陸兵ハ高圓坊村ヲ中央トシ東ハ津久井村ヨリ西ハ波島ノ濱ニ聯リ北軍ハ須輕谷村ノ要地ヲ占メ互ニ守備ヲ設ク

訓示

一艦隊觀音崎ニ進入スルヤ前夜其海岸ヲ撈索シ攻撃ノ主地ニハ水雷ノ虞ナキニ乘シ又數砲臺ノ集合火ヲ避ケ我艦砲ノ力ヲ一二ノ砲臺ニ集メ順次ニ一側ヨリ攻撃セシハ頗ル其當ヲ得タリ又艦隊ノ列制ニ單縱列ヲ用ヒタルハ可ナリ又主トシテ一舷打方ヲ採用セシハ艦ノ構造ニ適スル戰法ナリトス唯進撃ノ初メ砲臺ヲ距ル大凡二千五百米ノ位置ニテ少シク猶豫ノ形勢ヲ現ハシ其際忽チ敵砲ノ集合火ヲ蒙リシハ不可ナリ

一丁卯艦ノ砲臺下ニ接近シタルトキ艦ノ高所又ハ舷側上ヨリ身體ヲ顯ハシテ之ヲ隱匿スルヲ勉メシメサリシヲ以テ忽チ敵ノ集合銃火ヲ

蒙リシハ不可ナリ

三月九日午後南特別方略
軍艦隊ニ下ス

觀音崎ノ砲臺攻撃ハ南軍陸兵北軍ノ爲メニ要害ニ扼セラレシヲ以テ
其目的ヲ達スルコト能ハサルモノトス依テ其艦隊ハ陸兵ニ謀リ明十日
一部隊ヲ三浦半島ノ西岸ニ廻シテ北軍ノ側背ヲ衝キ尚東京ニ侵入ノ
目的ヲ達スル可シ

明治十八年三月九日於蒼龍艦

審判長總指揮官
海軍少將子爵樺山資紀

第三日(三月十日)部署
南軍

艦隊司令官部署命令
特別方略ト本日ノ戰況ニ依リ陸軍諸兵指揮官ト謀リ明十日攻撃ノ部
署ヲ定ム

午前四時天城天龍丁卯ノ三艦ヲ率ヒ長井灣ニ回艦砲撃シ機ニ乘シテ
水兵二小隊ヲ上陸セシメ背後ヲ衝クノ勢ヲ示シ敵軍ノ幾部ヲ此方ニ
誘動シ全力ヲ盡シテ我陸軍ノ正面ニ當ルヲ得サラシメントス

筑紫艦長ニ下ス命令

其官ハ明十日雷電千代田形ノ二艦ヲ指揮シ臨機長澤村以北沿岸ヲ砲
撃シ我陸軍ニ應援シ力メテ正面ノ攻取ヲ容易ナラシムヘシ

明治十八年三月九日

南軍小艦隊司令官
海軍大佐相浦紀道

第三日(三月十日)演習戰況

南軍艦隊司令官ハ天城天龍丁卯ノ三艦ヲ率ヒ三浦半島ノ西岸長井灣ニ向ヒ雷電千代田形二艦ハ筑紫艦ニ從テ金田灣ニ在ラシメ以テ南軍ノ左右翼ヲナセリ中央陸兵ハ敵ノ退却シタルニ乘シ進テ須輕谷村ヲ占領シ專ラ防禦ノ工事ヲナス北軍ハ只管敵ヲ瞰要ノ下ニ困シメンコトヲ圖リ悉ク平作川方位ニ退却ス南軍筑紫艦ハ金田沖ヲ巡航シテ遠ク敵兵ヲ砲撃シ雷電千代田形ノ二艦ハ海岸ニ近接シテ陸兵ヲ應援セリ又天城天龍丁卯ノ三艦ハ十一時長井灣ニ達シ丁卯艦ハ灣中ニ進入シ他ハ灣外ニ在リ陸上信號士官一小隊ノ護衛兵ニ依テ來リテ砲撃ノ主點ヲ指示ス丁卯艦即チ砲撃ヲ始メ又三艦ノ陸戰隊ヲ上陸セシム然ルニ兩軍ノ陸兵專ラ守勢ヲ取リテ敢テ進マス是ニ於テ止戰ス陸戰隊ハ殆ント着岸セントシテ歸艦シ艦隊ハ丁卯艦ヲ以テ該方面ノ防備トシ他ハ金田灣ニ歸港ス

訓示

一天城天龍丁卯三艦ノ長井灣ニ向フヤ出發ノ時刻豫定ノ如クナラス大凡三時間ヲ遲延シタルニヨリ其結果終ニ北軍ノ右翼ヲシテ砲撃ノ恐レナク容易ニ退却セシムルニ至レリ然レトモ此日黎明マテ天候險惡殊ニ測量充分ナラサルノ海灣ニ向フモノナレハ其出艦猶豫ノ如キハ演習ニ於テハ止ムヲ得サルモノトス

第四日(三月十一日)部署

南軍

艦隊司令官命令部署

本日敵ハ岳山ノ背後ニ據守シ相持シテ戰ハス深ク謀ル所アルニ似タリ察スルニ明旦必ス彼ノ全力ヲ擧シテ我カ陸兵ノ左翼ヲ衝撃シ以テ勝敗ヲ決セントスルモノヽ如シ依テ陸軍諸兵指揮官ト相謀リ其鋭ヲ避ケ轉シテ不意ニ敵背ヲ撃ヲ東京ニ進入スルノ大目的ヲ達センカ爲メ予ハ特別方略ニ基キ天城天龍筑紫ノ三艦ヲ督シテ陸兵ト併行掩護

シ遂ニ横須賀ニ達スルヲ以テ本旨トス

雷電艦長ニ下ス命令

我陸兵ハ明十一日午前第六時四十分ヲ以テ進發急行シ長澤村ヨリ路ヲ海岸ニ取リ無事ナレハ二時半ニシテ觀音崎ニ達シ同所ヲ略取セシトス依テ同六時ニ千代田形艦ヲ率ヒ平作川以南久里濱近海ニ廻艦シ臨機陸兵ノ行進ヲ掩護スヘシ

丁卯艦ハ長井灣ヨリ明朝發艦ノ時刻迄ニ當港ニ回着セハ旗艦ト共ニ引率スヘシ

明治十八年三月十日　於金田灣天城艦

南軍小艦隊司令官

海軍大佐相浦紀道

第四日(三月十一日)演習戰況

南軍ハ北軍逆襲ノ鋭ヲ避ケ却テ海陸併進全力ヲ以テ內川新田方位ヲ衝キ觀音崎砲臺ヲ占領セントシ先ツ雷電千代田形ノ二艦ヲ久里濱ノ海濱ニ回航セシメ砲撃ヲ以テ其要地ヲ扼シ其陸軍諸隊ハ悉ク道ヲ長澤野比ノ海岸ニ取リ天城天龍筑紫ノ三艦ト併進シ旗號ヲ以テ相通シ前路ヲ覆索砲撃シテ進ム北軍ハ昨夜策略ヲ一變シ以テ巳ニ攻勢ノ配備ニアリ兩軍ノ陸兵始メテ野比橋ニ遭遇シ放火ヲ始ム天城艦等之ヲ見テ遙ニ砲撃我陸兵ニ應援スヨリ兩軍ノ陸兵互ニ進退アリ演習ヲ中止スルマテ二回南軍終ニ野比久里濱間ノ嶮ヲ踰ヘ天城艦等常ニ之ト照應シテ進ム雷電千代田形ノ二艦ハ既ニ丸里濱灣中ニ在リ此時砲撃ヲ以テ大ニ北軍守兵ノ進退ヲ阻害スヨリ是ニ於テ北軍守兵久比里方位ニ退却シ南軍內川新田ニ達スヨリ是ヨリ先キ丁卯艦亦長井灣ヨリ來リ會スヌ武村方位ニアル北軍ノ先頭ハ南軍ノ背後ニ出テ其輜重ヲ掠奪ス天城艦等之ヲ猛撃スヨリ此ニ至テ南軍陸兵ハ其先頭ヲ以テ北軍久比利ノ守兵ヲ攻撃シ後尾ハ又武村方位ノ北軍ヲ抗拒シ殆ント挾撃ノ形勢ニ陷ラントスルモノハ如シ于時九時三十五分演習終局ノ止戰ヲ命シ艦隊

ハ横須賀ニ航進セシメ其灣口ニ於テ解隊ス

訓　示

一艦隊ヲ分配スルニ於テ悉ク小艦ヲ内川新田方位ニ當テ大艦ノミ陸兵ト併進シ海岸ニ接近シ得サルヲ以テ旗號ノ通信自在ナラス北軍ヲシテ砲撃スト雖モ陸上ニ於テハ隔靴掻痒ノ憾ナキ能ハス又北軍我陸兵ノ輜重ヲ掠略スルノ時天城艦等ノ之ヲ猛撃セント久里濱灣ニ於テ北軍騎兵ノ退却スルモノ其進軍スルモノニ遭遇シ其進退困難ノ時ニ乘シ雷電艦等ノ機ヲ失ハス之ヲ殿撃セシハ最モ奏功アルヘキモノトス

演習費

演習小艦隊ニ關スル諸費概算ハ總計六千四百九十七圓廿四錢ニシテ其區分ハ左表ノ如シ

小銃空彈包消耗費額表　擬（ホーチキス）砲ノ爲ニ消耗シタル空彈包ヲモ合算スルモノナリ

艦名	空彈包數	價額小計（十發ニテ拾六錢）
天城艦	一一八七五	一九〇、〇〇〇
天龍艦	四九六二	七九、三九二
筑紫艦	七一〇〇	一一三、六〇〇
第二丁卯艦	七一〇七	一一三、七一二
雷電艦	一〇六〇六	一六九、六九六
千代田形艦	一〇〇〇	一六、〇〇〇
總計	四二六五〇	六八二、二三〇

演習小艦隊各艦空彈包消耗費額表

艦名	砲種	射發數	裝藥價	藥嚢價	摩擦管價	小計價額	合計
天城	拾七拇克砲一	八二	一三五、三〇圓	九、八四圓	三、二八圓	一四八、四二	四〇八、〇八圓
	拾五拇克砲四	一九四	二一三、四〇	一九、四〇	七、七六	二二〇、五六	
	八拇克砲一	一一五	二五、三〇	九、二〇	四、六〇	三九、一〇	
天龍	拾七拇克砲一	三八	六二、七〇	四、五四	一、五二	六八、七六	二六六、七八
	拾五拇克砲一	三一	三四、一〇	三、一〇	一、二四	三八、四四	
	拾二拇克砲四	二一一	一一六、〇五	一八、九九	八、四四	一四三、四八	
筑紫	七、五拇克砲一	七五	九、九〇	三、二〇	三、〇〇	一六、一〇	
	十尹安砲二	一〇〇	六二五、〇〇	一二、〇〇	四、〇〇	六四一、〇〇	一、二七九、八九
	四十斤安砲四	三五一	四三八、七五	三五、一〇	一四、〇四	四八七、八九	
	九斤安砲二	二〇〇	一二五、〇〇	一八、〇〇	八、〇〇	一五一、〇〇	
	六十四斤安砲一	七九	一一八、五〇	七、九〇	三、一〇	一二九、五〇	
御二丁卯	四千斤安砲一	八八	一一〇、〇〇	八、八〇	三、五二	一二二、三二	三一四、三八
	八拇貌砲二	一八四	四〇、四八	一四、七二	六二、五六		
雷電	十二斤六角砲四	七二〇	一八〇、〇〇	五七、六〇	二八、八〇	二六六、四〇	二六六、四〇
	三十斤舊克砲一	一五八	八六、九〇	一四、二二	六、三二	一〇七、四四	一三三、一一
千代田形	米式十二斤銅砲一	三四	二一、一五	三、〇六	一、三六	二五、六七	
總計	三十一門	二六五九	二、三四二、六三			二三九、六七	二、六六八、六四
						一〇六、三四	二、六六八、六四

備考

火藥運搬費ハ白金火藥庫ヨリ築地倉庫迄　拾壹圓七拾錢

仝築地ヨリ横須賀迄一晝夜滯泊トモ　拾五圓拾錢

合計貳拾六圓八十錢ナリ

故ニ火藥ニ關スル總計費金ハ貳千六百九十五圓四十四錢ナリ

演習小艦隊各艦石炭及油費用價格表

艦名／物品	石炭	石炭價格	油	油價格	小計
天城艦	四萬九千三百斤	金二百三十六圓六十四錢八厘	五斗	金三十圓六十錢	金二百六十七圓廿四錢八厘
筑紫艦	五萬七千五百斤	金二百七十六圓	一石三斗	金四十六圓八十錢	金三百廿二圓八十錢
天龍艦	二萬六千八百八十斤	金百二十九圓廿四錢二厘	一石二斗六升五合	金八十一圓三十六錢	金二百十圓六十錢
第二丁卯艦	二萬七百七十斤	金九十九圓六十九錢六厘	二斗一升七合	金七圓八十一錢二厘	金百七圓五十錢八厘
雷電艦	八千百十五斤	金三十八圓九十五錢二厘	一斗三升	金四圓六十八錢	金四十三圓六十四錢二厘
千代田形艦	一萬五千七百七十斤	金七十五圓六十九錢六厘	一斗五升一合	金五圓廿八錢六厘	金八十圓九十八錢二厘
蒼龍艦	二萬六千八百七十斤	金八十圓九十七錢六厘	一斗五升	金五圓四十錢	金八十六圓三十七錢六厘
總計	十九萬五千二百五斤	金九百三十七圓二十一錢五厘	五石〇三升五合	百八十一圓九十三錢八厘	金千百十九圓四錢八厘

備考

但石炭一斤ニ金四錢八厘油一合ニ金三錢六厘

糸屑獣脂等ノ諸費額ハ審ナラサルヲ以テ算セス

演習小艦隊金額調査表

品名／艦名	天城艦	筑紫艦	天龍艦	第二丁卯艦	雷電艦	千代田形艦	蒼龍艦	計	
定例費金	一二三九八五三	三一六九六五	一九五五二六	一六二七六一	八〇二	〇三二六一八〇〇〇	一八五〇〇〇	九六八九七一九	
本年度定例費外ノ令種	三、九一三、〇三四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三、九一三、〇三四	
白米	二〇〇〇〇	一五〇〇〇	三〇〇〇〇	六五〇〇	七六〇〇	三四〇〇	二〇〇〇	七一〇〇〇	
麥	〇	七〇〇〇	九五〇〇	一八〇〇	四〇〇〇	〇三〇〇	〇二五〇	二二五八〇	
肉類	十四日分	十四日分	廿八日分	九日分	廿一日分	七日分	ノ百日分		
菜類	右全	十日分	十四日分	右全	十四日分	右全	七十五日分		
食用雜品	右全	右全	右全	右全	右全	右全	七十五日分		
ビスケット	〇	二〇〇	四八〇	一五〇	六〇	〇	八九〇		
チン	〇	四	七	〇	〇	〇	一二		
常用品	一ケ年度分受込	全上	全上	全上	全上	一ケ月分受込	本營ヨリ借用ノ	〇	

備考
一本表記載ノ金額等ハ小艦隊相州長浦灣抜錨前之調査ニ係ル本表中金錢ハ圓ヲ以テ一位トシ米麥ハ一石（ピスケット）ハ一斤ヲ一ハ壹瓶ヲ以テ一位トナス
一本表中筑紫艦ノ經費金寡少ニ過クルモノハ該調査後金三千五百拾八圓三拾錢三厘ヲ受込ミノ筈ニ依ル
一演習中ノ糧食品ハ凡ソ二週間ノ貯蓄ヲ要スベキ計畫ナリシヲ以テ本表中該日數ニ及ハサル部分ハ調査後更ニ購入ノ筈
一如此金額等ノ調査ヲ要セシハ即艦隊演習中ノ時日ニ在テ糧食其他ノ需要上支障ナキヤ否ヲ認定セシカ爲メナリ

校ノ加俸及下士卒ノ日給ニシテ至ク乘艦中增加スル處ノモノナリ

モノハ將校以下ノ旅費食卓料下士卒ノ航海夜食料若クハ賃等ノ類ニ係ル

モノハ演習教旨等ノ印刷又ハ演習地方ニ於テ買辨セシ小種ノ消耗品若シクハ郵便稅運搬費ノ類ヲ收ム

ルモノハ各艦常用品ノ外演習ノ爲メ故ラニ要求セシ諸種シテ即錨釘其他ノ金具類及石炭袋旌旗硝燈其他雜品等ノニテ演習濟ノ後ハ還納ノモノ十ノ八九ニアリト雖モ船具ニ由リ全ク演習ノ費用ニ算スルモノナリ

演習小艦隊ニ關スル雜費區分表

部分	科目	艦名	横須賀鎮守府倉庫	扶桑艦	金剛艦	比叡艦	東艦	筑波艦	第二丁卯艦	天城艦	筑紫艦	天龍艦	雷電艦	千代田形艦	蒼龍艦	小計
俸給	上長官俸給	圓							圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
	士官俸給									一五〇七五				一八三三二	一二三二三	一六〇四三
	下士卒俸給									〇六四六				九〇七五九	四七四二〇	三一三〇一
	小計									一五七二一				一〇九〇九一	六〇七一一	一三八一七九
雜給	旅費			五三〇三〇		六〇〇〇	四八三三〇	五九〇〇		四八四〇〇				二四〇〇〇	四五五〇〇	一八五五二三
	食卓料			四七〇四〇	二五四四〇			二二三二〇	一七二八〇	八七四〇〇	一四七三〇〇	一二七四四〇	六三〇〇〇	一一八七二〇	八一四〇〇	二三一一六〇
	傭給		六〇〇〇							一三九四三〇		一一〇〇		四二〇〇	二六〇〇	七二一七八八
	賜饌料													一五〇〇	〇八一〇	一五三三三〇
	小計		六〇〇〇	一〇〇〇七〇	五二四四〇	六〇〇〇	四八三三〇	二八二二〇		二七五二三〇	一四七三〇〇	一二八五四〇	六三〇〇〇	一四八四二〇	一三〇三一〇	一、一〇六八六〇
廳費	消耗品									三七二〇			〇七七〇	〇七五〇	三五三〇	八七七〇
	印刷費				六四七〇											六四七〇
	郵便税									〇二〇〇	〇二二〇			〇二六〇		〇六八〇
	運搬費													二四〇〇	一一六〇	三五六〇
	小計				六四七〇					三九二〇	〇二二〇		〇七七〇	三四一〇	四六九〇	一九四八〇
船具費	金具費															三五六三四
	雜品費															六三五七四五
	小計															六七一三七九
通計			六七七三七九	一〇六五四〇	二五四四〇	六〇〇〇	四八三三〇	二八二二〇	一七二八〇	二九四八七一	一四七五二〇	一二八五四〇	六三七七〇	二六〇九二一	一九五七一一	二〇〇〇五二二

備考

一 本表載スル處ノモノハ小艦隊編制ノ日ヨリ解隊ノ日ニ至ルマテ各艦平常經費ノ外特ニ演習ニ關スル費消ニ係ル將校以下ノ諸給與及各艦需用ノ物品費等ヲ蒐集スルモノニシテ其別左ノ如シ

一 俸給欄内ニ掲ルモノハ即艦隊演習ノ爲メ特ニ臨時ノ乘艦ヲ命セラレタル艦隊職員其他將校ノ加俸及下士卒ノ日給ニシテ全ク乘艦中增加スル處ノ差額等ヲ收ムルモノナリ

一 雜給欄内ニ掲ルモノハ將校以下ノ旅費食卓料下士卒ノ航海夜食料若クハ賜酒料及通船雇賃等ノ類ニ係ル

一 廳費欄内ニ掲ルモノハ演習敎旨等ノ印刷又ハ演習地方ニ於テ買辨セシ小蒸氣船用水及諸種ノ消耗品若シクハ郵便税運搬費ノ類ヲ收ム

一 船具費欄内ニ掲ルモノハ各艦常用品ノ外演習ノ爲メ故ラニ要求セシ諸種ノ需用物品費ニシテ即鋲釘其他ノ金具類及石炭袋旌旗硝燈其他雜品等ノ代價ニ係ルモノニテ演習濟ノ後ハ還納ノモノ十ノ八九ニアリト雖モ船具渡方經費ノ制規ニ由リ全ク演習ノ費用ニ算スルモノナリ

小艦隊演習中給與方

此給與方ハ小艦隊演習ニ關スル各艦主計長ノ質議ニ係ル條項ヲ便宜取纏メ該隊主計部長ヨリ會計局長ヘ照會シ其指示ヲ領セシモノニシテ今回ノ演習費途ハ總テ本紙方法ニ據テ整理ス

第一項　艦隊演習中一時甲艦ヨリ乙艦ヘ乘組タル上長官以下下士卒ハ演習後再ヒ本艦ニ復歸スヘキヲ以テ其本給加俸食料共總テ甲艦ニ於テ支出シ可然哉

但下士以下夜食料ノ如キハ其現在艦ヨリ支出シ可然哉

第二項　各廳ヨリ旗艦ヘ乘組タル准士官以上ノ加俸食卓料旅費（並旅費）ノ類ハ總テ旗艦ノ經費ニ相立可然哉

但往片道ノ旅費ハ各其本廳ヨリ支出スルヿ成規ノ通リ

第三項　臨時旗艦乘組ノ士官ニシテ今般御雇入ノ會社船舶ヘ一時乘組ヲ命セラレタルアリ右船舶乘組中ハ十八年一月丙第四號御達ニ據リ旗艦ヨリ支出シ可然哉

第四項　臨時旗艦乘組ノ士官ニシテ東京横濱等ヘ出張ヲ命セラレタルモノアリ右ハ隊外旅行ナルヲ以テ其旅費ノ如キハ成規ニ照準シ普通ノ給與取計可然哉

但演習地方ニ於テ演習中旅行シ若クハ陸泊スル時ハ十五年九月丙第六十四號御達ニ基キ現費支給可然哉

第五項　第一項ノ如ク甲艦ヨリ乙艦ヘ乗組ノ士官又ハ下士以下ニシテ其所轄ノ本艦横濱若クハ東京ニ在ル時本人ニ支給スヘキ旅費ノ義ハ即公用ニテ甲所ヨリ乙所ヘ往返セシモノト見做シ總テ甲艦ニ於テ支給シ可然哉

第六項　二等軍艦長ニシテ艦隊演習中小艦隊司令官ノ職ヲ帶ルモノハ海軍俸給制ニ據リ小艦隊指揮ノ加俸ヲ賜ヒ可然哉

但小艦隊指揮ノ加俸ヲ賜ル時ト雖モ其經費ハ甲艦ヨリ支出シ可然哉

第七項　三等軍艦長ニシテ艦隊演習中參謀長ノ職ヲ帶ヒ旗艦乘組又ハ三等軍艦長ニシテ臨時旗艦乘組ヲ命セラレタルアリ右兩員ノ一加俸ハ孰レモ其多キ方ヲ賜ヒ可然哉

但加俸多キ方ヲ賜ヒ候時ハ甲艦經費ヨリ支出シ可然哉

第八項　三等軍艦副長若クハ分隊長ニシテ艦隊演習中臨時旗艦乘組ヲ命セラレタル者ノ如キハ矢張前項ノ通リ其多キニ就テ加俸ヲ可賜哉

第九項　機關軍醫主計ノ三部長ハ其乘艦中本官相當ノ加俸ヲ賜ヒ可然哉

第十項　小艦隊演習ニ係ル審判長ハ中艦隊司令官之レヲ執行スル成規ニ有之趣ニ候處同官病氣ニ付樺山少將殿之ニ代リ隨テ審判官及陪從員等夫々命セラレタリ就テハ右審判官ニ係ル諸費（加俸食料旅費其他審判）ハ總テ中艦隊ノ經費ニ相立候方允當ニテ有之哉ト存候右ハ如何相心得可然哉

但審判長ハ中艦隊指揮ニ準シ加俸ヲ賜ヒ可然哉

第十一項　旗艦附屬ノ小蒸滊船ヲ以テ一時病院船ニ充ツルコアリ右乘船ノ患者賄費等ハ旗艦ノ經費ニ相立可然哉

第十二項　艦隊演習中負傷者若シクハ平患者之レアル時旗艦附屬ノ小蒸滊船等ヲ以テ浦賀地方ニ送リ夫ヨリ上陸ヲ經テ横須賀病院ニ投スル者アル時其陸路等係ル患者旅費ハ成規ニ據リ本人所轄ノ本艦ヨリ支出シ可然哉

第十三項　演習用臨時買入品又ハ通船雇賃其他諸種ノ費用ニシテ艦隊全部ニ係ル者ハ總テ旗艦ノ經費ニ編入可然哉

第十四項　千代田形蒼龍ノ二艦ハ豫備艦ヨリ一時小艦隊ニ編入セラレ其艦長以下ノ定員ハ鎮守府及他艦屯營等ヨリ乘組ヲ命セラレタル者ニシテ第一項ニ記載スル甲艦ヨリ乙艦ニ補欠シタルノ類トハ少數異リ候樣被存候ヲ其支給向キ左ノ通取計可然哉

一鎮守府及他艦屯營ヨリ千代田蒼龍ヘ乘組タル艦長軍醫主計其他士官等ノ加俸食卓料ハ艦隊編制ノ日(即三月二日)ヨリ解隊ノ日(即

三月十一日迄各其本艦ニテ支出ノ事

但其拜命三月二日以後ナレハ其拜命當日ヨリ起算ノコト

二屯營ヨリ乘組タル下士以下兵員ノ本給食料等ハ總テ前同樣各其本艦ニテ支出ノコト

三各本艦定員ノ外臨時他艦ヨリ爲補欠乘組タル兵員ノ支給向ハ總テ第一項ノ通取扱ノコト

四前記ノ如ク支給向ヲ區分セシト雖モ各本艦ハ演習後再ヒ豫備艦ニ復シ總理ノ所轄ニ屬スヘキヲ以テ右演習中本艦ノ支出ニ係ル經費ハ豫備艦ニ於テ整理取計候方可然哉

第一項　總テ兼勤ノ例ニ倣ヒ甲艦ニ於テ支給スヘシ

第二項　但書ノ義ハ本項ニ準シ旗艦ニ於テ支給スヘシ

第五項　十五年十二月丙第百拾五號達ニ基キ乙艦ニ於テ支給スヘシ

第六第七第八項ハ海軍概則幷俸制第八條第四項ニ準シ其多キ方ヲ支給スヘシ

但本文ノ場合ニ於テハ其加俸多キ艦ヨリ支辨スルコト

第十項　加俸ハ第六項指令ノ通尤各艦ヨリ乘艦スル者ノ加俸及食卓料旅費其他諸費等ハ總テ其艦ニ於テ支給スヘシ

但審判長ノ義ハ加俸賜ハル例規無之義ト心得ヘシ

第十三項　現ニ需用ノ艦船ニ於テ支辨スヘシ

其他伺之通

演習小艦隊機關部總表

艦名 / 名稱	筑紫	天城	第二丁卯	雷電	千代田形
馬力	二千四百	六十六轉ノ時三百廿四	六千	八千	三千二
噸數	容積凡千三百五十	不明	九百〇八	容積百二十五	七十二
機關士數	八名	三名	二名	一名	一名
機關工長數	四名	二名	一名	一名	一名
機關工手ノ數	〇	二名	二名	二名	二名
火夫長以下	三十七名	二十七名	五名	二名	三名
火夫ノ數	三十一名	二十三名	十一名	七名	五名
平常當直	下士一人 火夫一人	下士一名 火夫一名	下士一名 火夫一名	下士一名 火夫一名	一晝夜
戰爭當直	下士六名 火夫二十三名	下士三名 火夫十二名	下士二名 火夫六名	下士二名 火夫三名	下士二名 火夫四名
海航品現在	十四晝夜	未タ請込マス	十四晝夜	四晝夜	六晝夜
常用品現在	來ル六月迄	昨今上申中	來ル六月迄	全上	全上
					六ケ月

石炭積高	五十四萬九千三百六十斤	凡三十萬斤	二十七萬斤	六萬斤	六萬八千斤	三萬二千斤
現在石炭	三十五萬三千七百十二斤	凡二十七萬斤	十八萬斤	五萬七千五百斤	五萬九千斤	二萬四千斤
平均石炭一晝夜ノ費用	英國炭ニテ六萬斤	不明	二萬七千斤	一萬五千斤	八千斤	八千斤
全速力ノ里程	百二十轉十六	不明	七十轉八里半	百十六轉七里半	六十轉三里半	六十轉四里
半速力ノ里程	六十五轉九里半	不明	五十五轉六里	八十轉六里	二里半	四十五轉二里
滊壓最大數	九十磅	六十斤	二アトセス半	十七磅	八磅	二アトセスヒール
滊罐ノ數	四箇	四箇	貳箇	貳箇	壹箇	三箇
機關ノ種類	横置直働聯成雙翅機關	横置直働聯成機關	聯成直働機關	横置依壓機關	ペン氏トランク機關	高壓横置隔働
艦ノ等級	三等	三等	四等	五等	五等	六等
甲鐵或木製	鋼製	木製	木製	木製	仝上	仝上
機關ノ年限	渡來後三年不明	不明	八ヶ年	二十ヶ年	三十四ヶ年	
滊罐ノ年限	渡來後三年不明	不明	八ヶ年	十二ヶ年	十三ヶ年	八ヶ年

演習小艦隊機關運轉表

名稱＼艦名	天城艦	筑紫艦	天龍艦	第二丁卯艦	雷電艦	千代田形艦
運轉時間	三十時三十分	二十五時	三十二時、三八	三十九時	五十二時	四十一時二十六分
平均一時間ニ石炭ノ費用	千二百十一斤	一千二百四十斤	八百廿三斤、七三	四百七十一斤、九	百四十七斤、一	三百四十斤
埋火時間	六十四時	四十九時三十分	三十二時、三八	五十五時	四十二時	四十六時
平均一時間ニ費ス埋火石炭	百十八斤	三百十八斤	五十九斤、七	四十三斤	十二斤、五	三十四斤
平均一時間ニ費ス機械油	二升八合	五升二合	六升五合、五二	五合五勺六四	二合五勺	三合六勺
運轉中滊壓平均ノ度	三十五斤、五	七十四英斤	五十斤	十六斤、七	七斤半	二十九斤
仝蒸氣計	二十二英寸	二十二英寸	二二、五	二三、一五	二三	
一分ノ時間平均回轉數	五十五	三十三	四十二	六七、五	五十八	六十四
合計石炭費用	四萬九千三百斤	五萬七千五百斤	二萬六千八百一斤	二萬七百七十斤	八千百十五斤	一萬五千七百七十斤
合計油ノ費用	八斗五升	一石三斗	二石二斗四升五合	二斗一升七合	一斗三升	一斗五升一合

演習假病院船規則

一、病院船ハ演習小艦隊附屬牛若丸ヲ以テ假ニ之レニ充ツ

一、假ニ船長軍醫看護手各一名ヲ臨時ニ乘組シム

一、船長ハ旗艦ノ指揮ニ隨ヒ本船ノ進退ヲナス

一、軍醫ハ治療ヲ主宰シ衛生ニ關スル一般ノ事ヲ擔任ス

一、看護手ハ軍醫ノ命令ニ隨ヒ看護ニ從事ス

一、病院船ニハ目標トシテ海軍病院旗ヲ檣上ニ掲ク

一、病院船ハ敵ノ彈丸達外ニ錨泊セシム

一、海陸ノ別ナク負傷者或ハ疾病者ヲ本船ニ送付シ來ルトキハ其負傷疾病ノ略歷ヲ檢査シ本船ニ交收ス

演習小艦隊醫務衛生ニ關スル軍醫部長報告

演習小艦隊ハ六艦其人員ハ百五十二人之レニ附屬四馬力船牛若丸ノ二艘其人員十九人合計八百七十一人ニシテ自三月三日至同十一日演習

九日間各人ノ動作平時ニ倍シ下士以下ノ勞働頗ル多ク又睡眠平時ノ如クヲ得ス故ニ終夜演習施行ノ時ハ夜間十時頃下士以下ニ酒類ヲ授ス其量和酒各人一合未滿同十二時後麥粥ヲ喫セシム其量各人一合單ニ之ヲ以テ其勞働ヲ補充スルニ足ルモノニ非スト雖モ一時其疲勞ト空腹ヲ醫スルノ目的ニ由ル實戰ノ時ニ於テハ糧食最モ要用ナレハ今日ノ如ク米麥ヲ日ニ三度炊ク時ハ戰況ニ由リ或ハ炊事ヲ全スル能ハサルモ期スヘカラス後來米麥飯ヲ蒸餅乾蒸餅ニ改良アラハ第一衛生上大ニ功アリ第二其便益亦尠カラサルヘシ

上陸隊編成金田灣ニ北軍ヲ攻擊ノ日筑紫艦少軍醫寺島大浩ニ同艦看護手一名ヲ付シ隊付トシテ上陸セシメラレンモ幸ニメ始終敵彈ニ傷ケラレシモノナク亦疾病ニ罹リシモノナシ

病院船ハ本隊附屬ノ牛若丸ヲ以テ假ニ之ニ充テラレ乘組ハ士官一名準士官二名下士以下九名ニメ檣上ニ病院旗ヲ掲ケ常ニ敵ノ彈着外ニ航泊シ總テ旗艦ノ命令ニ隨テ進退ヲナシ海陸ノ別ナク負傷疾病者ヲ

送來ルトキハ其略歷ヲ撿査シ同船ニ交收スルヿニ定メラレタリ蓋シ同船ハ後部ニ一室アルノミ該室空氣ノ容積ヲ撿スルニ僅カニ患者二名ヲ容ルヽニ足ルモ五名ヲ容ルヘキモノト假想シ糧食等之レニ據テ准備ヲナシ天龍艦少軍醫中山量信ニ同看病夫一名ヲ付シ臨時之レニ乘組マシメ治療ヲ主宰シ衛生ニ關スル一般ノ事ヲ擔任セシメラレシモ同船夜中ハ水雷偵察晝間亦他ノ使用ニ供セラレシヲ以テ假令ヒ病院船ノ名アルモ實際ニ照シ之レカ得失ヲ發見スルニ由ナシ然ヒ演習中三月十日筑紫艦一等若火夫田中六治同一等割烹夫長島信吉ノ二名痲疹ニ罹リシニ由リ直ニ之ヲ同船ニ移シ横須賀海軍病院ニ送付ス同地方ハ當時北軍ノ領内敵地ナルモ亦假ニ我カ南軍占領ノ地ト見做シ同艦ヲ用ヒテ送院セシハ大ニ其便益ヲ得タリ

病院船ハ第一船體ノ造構内部空氣ノ流通最モ必要ニシテ其數三艘ヲ要ス不得止場合ニ於テハ一隻ニシテ船内病室ヲ三部ニ區分シ第一負傷第二雜病第三熱病等傳染性疾患ノ三者ヲ隔居セシメ殊ニ糧食藥品

及療用品等ノ准備ハ勿論軍醫監軍醫看護手看病夫等適宜ノ乘組ヲ要スト雖モ今般ノ演習ニ際シテハ之レニ適當ノ艦船ナク不得止牛若丸ノ小船ヲ以テ假設セラレシモ獨リ其名アルノミニ過キス他日好機アラハ完全ナル病院船ノ設ケアランヿヲ希望ス然リト雖モ同船ハ遠征ニ必要ニシテ支那朝鮮ノ如キ一帶海ヲ以テ隣接スル國ト交戰ノ秋ニ際シハ寧ロ安全完備セル運送船數艘ヲ用ヒテ負傷疾病者ヲ直ニ本國ニ護送スルノ便且益アルニ如カサルヘシ

負傷疾病者ノ總數ハ六十二名ニシテ三月三日前ヨリ罹病ノ舊患者廿四名演習中ニ起因セルモノ三十八名内負傷十一名痲疹六名雜病廿一名横須賀海軍病院ニ送付セシモノ三名内一名ハ千代田形艦ノ水兵ニシテ手指ニ負傷セシモノ長浦碇泊中ニ係ハル全治三十四名未治廿五名其明細ヲ左表ニ示ス

小艦隊患者表 自十八年三月三日至同年同月十一日

人員	八七二人	
患者	六二人	内譯 舊患 二四人 新患 三八人

送院　三人
全治　三四八
未治　二五八

細譯

人員延數　九〇九六　人員延數百名ニ付　三〇四五
患者延數　二七七　仝　百名ニ付　五四九
輕役延數　五〇　仝　一一二
休業延數　一〇二

右ニ掲ケル如ク人員延數百名ニ付患者延數三〇四五ナリ之ヲ從來海軍部内平時ノ患者數ニ比較スルニ甚タ少數ナリ又其内輕役ト全ク業ニ堪ヘサルモノ即チ休業ノ延數モ敢テ多數ナラス如此景況ニ就テ推考スルニ戰時日月ノ長短ト風土季候ニ因リ增減一ナラス負傷者ノ增數亦豫期スヘカラスト雖モ自今脚氣豫防其目的ヲ達セハ戰ニ際シ乘員ノ健康ヲ保護スル亦敢テ難キニアラス

演習特別信號書

此信號ヲ爲スニハ號旗ノ上ニ食事旗ヲ加ヘ以テ區別スルモノトス

此信號ハ海軍信號書ノミト混用スルヿヲ得

但運動信號書ノ否信旗ハ此信號ニ於テモ混用ス

手旗信號ヲ用フルトキハ區別旗ヲ以テ示シ然ル後此信號ヲ爲スヘシ

夜中陸上ト旗艦或ハ先任艦ト信號ヲ爲ストキハ海軍發光信號法ニ依ル」

但此信號ヲ爲スニハ區別符ヲ用ヒ(發光信號法ニハ長光短蔭短光短蔭無數連續トアレトモ二回ニテ止ム)然ル後信號ヲ始ムヘシ

一	猿島砲臺		二	富津崎ノ砲臺	
三	富津島ノ砲臺		四	走水村	
五	觀音崎砲臺 第一第二第三第四砲臺ヲ示ストキハ區別旗上ニ一二三四ヲ加ヘテ示スヘシ		六	觀音崎野砲臺	

七	鴨居村	
九	浦賀灣或ハ浦賀町	
一二	大塚	
一四	八幡村	
一六	千駄崎	
一八	三ッ岩近邊ノ瀬	一名向島近邊ノ瀬
二〇	長澤村	
二三	津久井村	
二五	諏訪路	
二七	上宮田村	
二九	菊名岬	
三一	金田灣或ハ金田村	
三四	諸磯崎	
八	鳥ケ崎	
一〇	千代崎	
一三	久比里村	
一五	久里濱村	
一七	アシカ島	
一九	野比村	
二二	一本松	長瀞村ト津久井村ノ界ニアル川ノ所
二四	八坂路	
二六	瀬戸水深	
二八	城ガ山	
三〇	菊名村	
三二	三崎	
三五	油壺灣	

三六	城山崎	
三八	小網代灣或ハ小網代村	
四〇	三戸村	
四二	龜島ノ瀬	
四五	林村	
四七	秋谷村	
四九	舘山運輸支局	
五一	牛若丸	
五三	高所	
五六	森林	
五八	北	
六〇	南	
六二	中央	
三七	城山崎ノ狹隘	
三九	雀島對岸	
四一	荒井村	
四三	長井灣或ハ長井村	
四六	佐島村	
四八	舘山灣	
五〇	十馬力船	
五二	四馬力船	
五四	低所	
五七	砂濱	
五九	東	
六一	西	
六三	採リナ擊テ敵ノ有無ヲ偵察セヨ	

六四	機砲ヲ撃テ	
六七	陸ニ近ツキ得ル丈ケ近ツケ	
六九	南軍ノ陸上スルヲ援護セヨ	
七一	十馬力船棧橋ヲ造レ	陸ヨリ爲シタルヤハ陸ヨリ造レリノ意ヲ示ス
七三	陸軍兵ヲ上陸セシメヨ	運送船ヨリ爲シタルヤハ上陸セシメタリ陸上セリノ意ヲ示ス
七五	陸軍兵ト交代セシナレハ海軍兵ハ歸艦セヨ	
七六	野砲ヲ陸揚ケセヨ	
七九	運送船ヲ護衛セヨ	
八一	東京鎮臺ノ先鋒着ス	
八三	佐倉分營長	
八五	立見中佐	
八七	運送船	
九〇	演習艦隊司令官	

六五	砲撃セヨ	
六八	運送船ハ彈着外ニアレ	
七〇	陸兵ニ應援セヨ	
七二	運送船棧橋ニ接近シテ碇泊セヨ	
七四	陸軍兵ノ荷物ヲ陸揚ケセヨ	運送船ヨリ爲シタルヤハ上陸セシメタリ陸上セリノ意ヲ示ス
七八	運送船信號士官一名來レ	
八〇	砲彈ノ發射線外ニアレ	
八二	尾本少佐	
八四	觀音崎砲臺長	
八四	審判官	
八九	病院船	
九一	審判長	
九三	上陸隊ノ右翼ニ回リ臨機砲撃セヨ	

九二	高井少佐	
九四	上陸隊ノ左翼ニ回リ臨機砲撃セヨ	
九六	上陸隊ノ左翼ヲ撃テ	
九五	上陸隊ノ右翼ヲ撃テ	
九七	上陸隊ノ前面ヲ撃テ	
九八	敵兵見ユル砲撃ヲ試ム	

一夜中操練ノ信號ハ演習中左ノ信號燈ヲ「ヤーダーム」或ハ「マストヘッド」ニ掲ケ海軍信號ニ代用スヘシ

—○—●— 戰爭操練 但敵地ニ於テハ戰爭ノ意ヲ示ス

—●—○— 本艦操練 旗艦ヨリ信號燈ノ上ニ青燈一個ヲ加ヘテ掲ルヤハ夜直ヲ置ノ意ヲ示ス

—●——● ガートボート出セー

—●—●— 火災操練

前信號ノ應燈ハ白燈一個ヲ用ユ

此信號ヲ以テ操練ヲ行フヲ報シ旗艦ヨリ之ヲ中止セントス欲スルヤハ操練信號燈ノ上ニ白燈一個ヲ加ヘテ掲揚スルモノトス

陸上信號士官必得

陸上信號場ハ成丈ケ旗艦ヨリ見ヘ易キ地ヲ撰定スヘシ信號場ヲ定メタル後ハ常ニ其旗竿上ニR旗ヲ揚クヘシ

信號場ヲ移轉シタルトキハ直ニ新設シタル信號場ニR旗ヲ揚ケ同時ニ舊信號場ノR旗ヲ下スヘシ

陸上信號士官ハ常ニ自カラ海軍信號書特別信號書發光信號書及信號日誌ヲ携持シ決シテ之レヲ他ニ委スルヲ禁ス

陸上ヨリ信號ヲ爲スニハ常ニ旗艦或ハ先任官ニテ受ルモノトス

但他艦ニ信號ヲ爲サシトスルトキハ先ツ其艦船ヲ指示スヘシ

旗艦ヨリ陸上ヘ信號ヲ爲スニハ別ニB旗一流ヲ揚ケ以テ艦隊ヘ爲ス信號ト區別スヘシ

信號日誌ハ明細確實ニ能ク其時ノ兩軍ノ景況ヲ記シ置クヘシ

演習終リシ後ハ信號場報告書及信號日誌ヲ演習艦隊司令官ニ差出スヘシ

演習特別信號追加

此信號ハ百位以上ヲ示スモノトシ號旗ノ下ニ食事旗ヲ加ヘテ揭クヘシ

一	陸戰隊用意	二	陸兵
三	否信旗	四	小隊旗（食事旗ノ下ニ續テ一ノ旗ヲ加フレハ第一小隊ヲ示ス等ノ例ニ從フ）
五	艦隊番號旗	六	整合旗
七	標準旗	八	整備旗
九	受繼旗	一〇	運動區別旗
一二	汝ノ何ニ敵兵潛伏ス	一三	早ク備エヲ附ケヨ
一四	棧橋ヲ急ケ	一五	棧橋宜シキヤ
一六	南軍	一七	北軍
一八	水兵陸兵ト交代セリ	一九	敵兵退據ノ模樣ナリ
二〇	敵我端艇ヲ襲ハントス	二一	棧橋掛リ上陸用意

天城艦

年月日	砲種類	發砲ノ場所	距離	發數
十八年三月八日	十七拇克砲 一門	金田灣	千五百「メートル」千「メートル」	四十六發
仝	十五拇克砲 四門	仝	仝	七十發
仝	八拇砲 一門	仝	仝	六十發
十八年三月九日	十七拇克砲 一門	音崎	千三百「メートル」三百「メートル」	二十七發
仝	十五拇克砲 四門	仝	仝	九十二發
仝	八拇砲 一門	仝	仝	五十四發
十八年三月十一日	十七拇克砲 一門	金田灣	三千「メートル」千「メートル」	九發
仝	十五拇克砲 四門	仝	仝	三十二發
仝	八拇砲 一門	仝	仝	一發

小銃彈藥包ハ擬「ホーチキス」砲ト共ニ一萬千八百六拾二發ヲ發射ス

筑紫艦

十八年三月八日	十吋アームストロング後裝砲 二門	金田灣	平均千五百「ヤード」	三十九發
仝	十四斤アームストロング後裝砲 四門	仝	仝	百十六發
仝	九斤アームストロング後裝砲 二門	仝	仝	八十三發
仝	ホッチキース砲四門	仝	ナシ	
十八年三月九日	十吋アームストロング後裝砲 二門	音崎	二千「ヤード」ヨリ五百「ヤード」迄	四十六發
仝	四十斤アームストロング後裝砲 四門	仝	仝	八十五發
仝	九斤アームストロング後裝砲 二門	仝	仝	四十二發
仝	ホッチキース砲四門	仝	五百「ヤード」	四千四百發
十八年三月十日	十吋アームストロング後裝砲 二門	金田灣	平均二千百「ヤード」	十五發
仝	四十斤アームストロング後裝砲 四門	仝	仝	九十四發
仝	九斤アームストロング後裝砲 二門	仝	仝	四十三發
仝	ホッチキース砲四門	仝	ナシ	

十八年三月十一日	十吋アームストロング後裝砲	二門	金	田灣	平均三千「ヤード」	ナシ
仝	四十斤アームストロング後裝砲	四門	仝	仝	五十六發	
仝	九斤アームストロング後裝砲	二門	仝	仝	三十二發	
仝	ホツチキース砲四門		仝	仝	ナシ	

一前顯ノ距離ハ其日ノ平均ヲ以テ記ス

一「ホツチキース」砲四千四百トアルハ小銃空包ヲ以テ之ニ擬スル而シテ同砲及ヒ小銃發射ハ總計七千百發ナリ

天龍艦

十八年三月八日	十七拇克砲	一門	金	田灣	三千「メートル」ヨリ千「メートル」迄	十三發
仝	十五拇克砲	一門	仝	仝		七發
仝	十二拇克砲	四門	仝	仝		六十二發
仝	七五拇克拇	一門	仝	仝		三十四發
仝	一尹諾典砲	四門	仝	仝		

十八年三月九日	十七拇克砲	一門	觀音崎	千二百「メートル」ヨリ二百「メートル」迄	二十一發	
仝	十五拇仝	一門	仝	仝	二十三發	
仝	十二拇仝	四門	仝	仝	百三十四發	
仝	七五拇仝	一門	仝	仝	三十發	
仝	一尹四連諾典砲	四門	仝	八百「メートル」ヨリ二百「メートル」迄	不明	
十八年三月十一日	十七拇克砲	一門	金	田灣	三千「メートル」ヨリ千五百「メートル」迄	四發
仝	十五拇仝	一門	仝	仝		二發
仝	十二拇仝	四門	仝	仝		十五發
仝	七五拇仝	一門	仝	仝		十一發

小銃彈藥包ハ擬「ボーチギス」砲ト小銃トヲ合セテ四千九百六拾二發ヲ消耗ス

第二丁卯艦

十八年三月八日	六十四斤安砲	一門	金	田灣	千五百「ヤード」ヨリ五百「ヤード」迄	五十七發

仝	四十斤安砲 一門	仝				
仝	八拇ブロードウエル砲二門	仝				
仝	ノルデンヘルド二門	仝				
十八年三月九日	六十四斤安砲 一門	觀音崎	仝	七百「ヤード」ヨリ五百「ヤード」迄	不明	
仝	四十斤安砲 一門	仝	仝	二千「ヤード」ヨリ四百「ヤード」迄	二十一發	四十八發
仝	八拇ブロードウエル砲二門	仝	仝	仝	三十六發	
仝	ノルデンヘルド二門	仝	仝	仝	四十四發	
十弐年三月十日	六十四斤安砲 一門	長井灣	二千五百「ヤード」	一發		
仝	四十斤安砲 一門	仝	仝	仝	四發	
仝	八拇ブロードウエル砲二門	仝	仝	仝	三發	

小銃彈藥包ハ擬「ホーチキス」砲ト共ニ大凡七千百七發ヲ消耗スト但シ精算ニアラス

雷電艦

十八年三月八日	十二斤六角砲 四門	金田村ヨリ上宮田村沖	千二百ヤード	五十發		
仝	仝	仝	七百ヤード	百五十發		
十八年三月九日	仝	上宮田村以北沿岸	千五百ヤード	十發		
仝	仝	仝	千二百ヤード	二十三發		
仝	仝	仝	九百ヤード	三十二發		
仝	仝	仝	千ヤード	十二發		
仝	仝	長澤村以北沿岸	仝	二十發		
仝	仝	仝	八百ヤード	三十發		
仝	仝	仝	七百ヤード	二十三發		
仝	仝	久里濱沖	八百ヤード	二十五發		
十八年三月十一日	仝	仝	千三百ヤード	三十一發		
仝	仝	仝	千五百ヤード	十三發		

仝							
仝	仝						
小銃彈藥包ハ總計一萬六百六發ナリ							
千代田形艦							
十八年三月八日	三十斤舊式クルップ	一門	金田灣菊名村岬近海ヨリ上宮田村地方	三百「メートル」ヨリ千八百「メートル」迄	四十九發	千ヤード	二十一發
仝	米二十二斤銅砲	一門	仝	二百「メートル」ヨリ五百「メートル」迄	十・六發		
仝	假定メルテン	二砲	仝	二百「メートル」ヨリ千「メートル」迄	不明		
十八年三月九日	三十斤舊式クルップ砲	一門	金田灣津久井村ヨリ長澤村海岸地方	千「メートル」ヨリ二千百「メートル」迄	四十一發		
仝	米二十二斤銅砲	一門	仝	八百「メートル」	四發		
十八年三月十日	三十斤舊式クルップ砲	一門	金田灣長澤村海岸地方	七百「メートル」ヨリ二千「メートル」迄	二十三發		
仝三月十一日	仝	仝	山田岬ヨリ久里濱八幡地方	三百「メートル」ヨリ二千「メートル」迄	四十・五發		
仝	米二十二斤銅砲	一門	仝	三百「メートル」ヨリ六百「メートル」迄	十四發		

小銃彈藥包ハ一千發ヲ消耗ス

演習計畫一斑

一始メ審判諸官ハ東京鎭臺ト連合演習ノ議相協ヒシ上先ツ其將校ト共ニ一般方略ヲ定メ次ニ略兩軍ノ兵力ヲ定メ次ニ特別方略ヲ定メ而シテ兩軍交戰ノ景況ヲ左ノ如ク想像シ以テ兩軍ノ兵力ヲ確定セリ依テ想像ノ景況ヲ記シテ實施ノ景況ト參考スルニ供ス

兩軍交戰上想像ノ景況

第一期

○南軍艦隊上宮田灣ノ守兵ヲ攻撃シ我陸兵ノ上陸ヲ得セシメ海陸相應シ長澤野比ノ兩村ヲ經ヲ觀音崎ノ側背ヲ衝ントス

○北軍金田灣ノ守ヲ失シ觀音崎ノ方位ニ退却シ八幡久里濱ノ險ヲ扼シ援兵ノ來ルヲ待ツ

第二期

○南軍艦隊ハ觀音崎ノ砲臺ヲ攻撃シ昨日上宮田村ニ上陸スル陸兵ト相應シ觀音崎ヲ側背ヨリ攻撃シ愈其目的ヲ達セントス

○北軍金田灣ノ我守兵ノ敗退ヲ援助セントス欲シ南軍ノ根據ヲ衝カンガ爲メ武村方位ヨリ進軍ス

共同運輸會社請負書

一今回ノ演習ニ於テ最モ感スル可キハ共同運輸會社ニ運送船トシテ二艘船賃借ノ一ヲ依囑セシニ社長伊藤雋吉副社長遠武秀行能ク演習ノ趣旨ヲ了承シ定價ノ半額餘ヲ減シテ其囑ニ應セシヲ是ナリ依テ仝社ノ受負書ヲ卷端ニ載セ亦以テ讀者ノ參考ニ供ス

記

今般演習御用船トシテ相摸丸伊勢丸ノ兩艘ヲ御使用相成候ニ付費用取調候處別紙積書ノ通諸費相掛候處兼テ御談示ノ趣モ有之候義ニ付計算ノ如何ニ拘ラス左ノ金額ヲ以テ御用相勤可申候

一金壹千圓也

百

相摸丸伊勢丸御雇料

但馬匹艀舟二艘雇料幷ニ木材取付手間賃

繩梯子十六個圓三人分四個鐵砲掛百個（十二挺）新調代價共

右金額ヲ以テ御用被仰付奉畏候依テ御受仕候也

十八年二月二十八日

海軍省軍事部 御中

共同運輸會社

演習御用ニ付船名及費用取調

船名 相摸丸 噸數千七百九十九噸

一ヶ月金九千貳拾圓拾八錢六厘但日數三十日間

一ヶ日金三百圓六拾七錢三厘割合

此三ヶ日分金九百貳圓壹錢九厘

仝 伊勢丸 噸數千百八十五噸 但日數前同斷

一ヶ月金五千九百四圓三拾三錢

百一

一ヶ日金九拾六圓八拾壹錢壹厘

此三ヶ日分金五百九拾圓四拾三錢三厘

外ニ

金五百拾六圓八拾錢　右兩船諸品買入其外費用

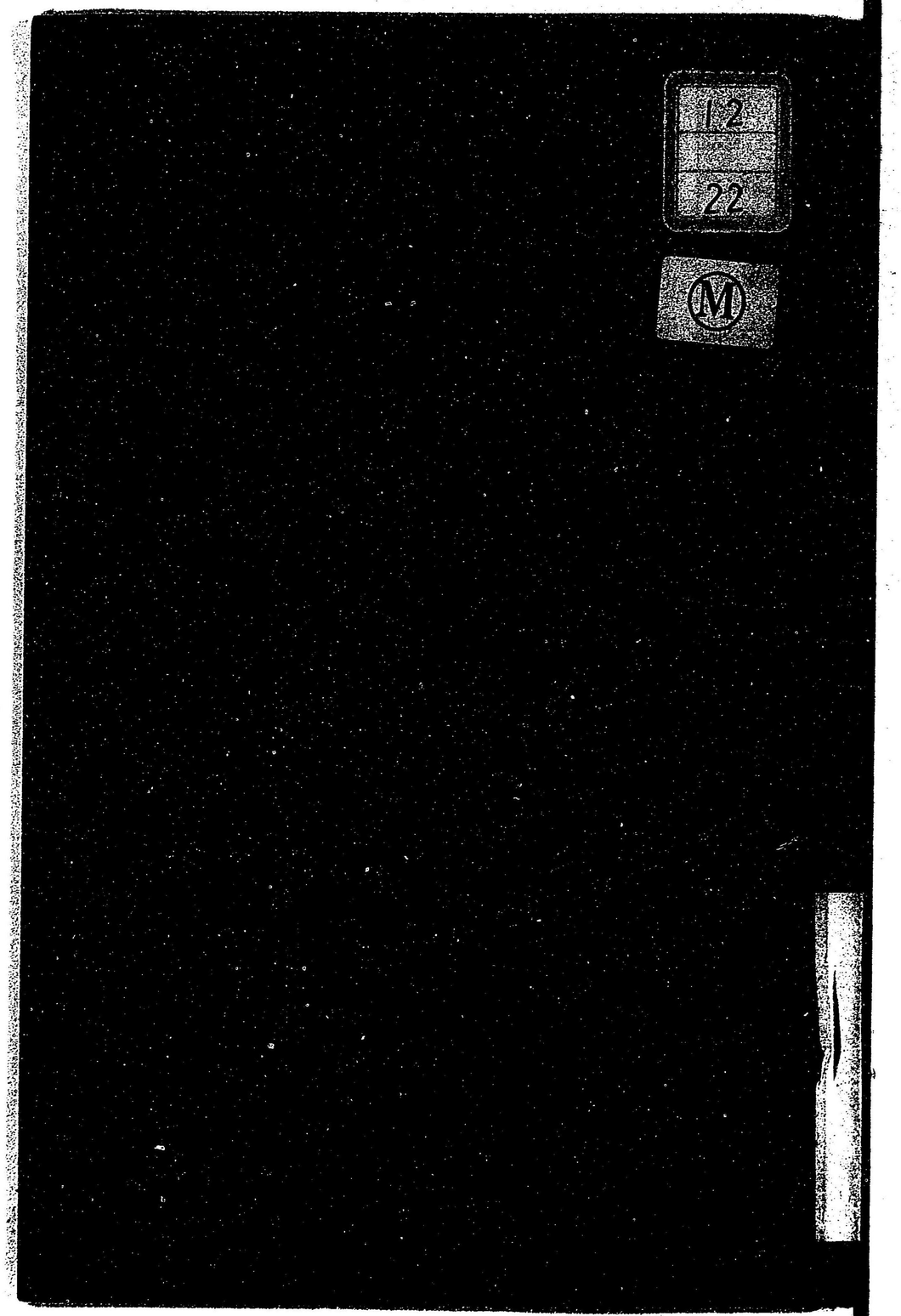
合計金貳千拾壹圓貳拾五錢貳厘

右ノ通御坐候也

共同運輸會社

運送船相模丸ハ故障ニ依リ肥後丸ニ換ヘタリ運送船ノ略表ハ左ノ如シ

	噸数	馬力	速力	船質	檣数	縦長	横幅	吃水
相模丸	千七百九十九噸	百二十五馬力	十一浬	鐵製	二檣	二百七十尺	三十七尺	前十九尺 後二十尺
肥後丸	千二百廿[illegible]噸	百二十五馬力	十[illegible]浬	仝	二檣	二百二十五尺	三十二尺	前十四尺 後十六尺

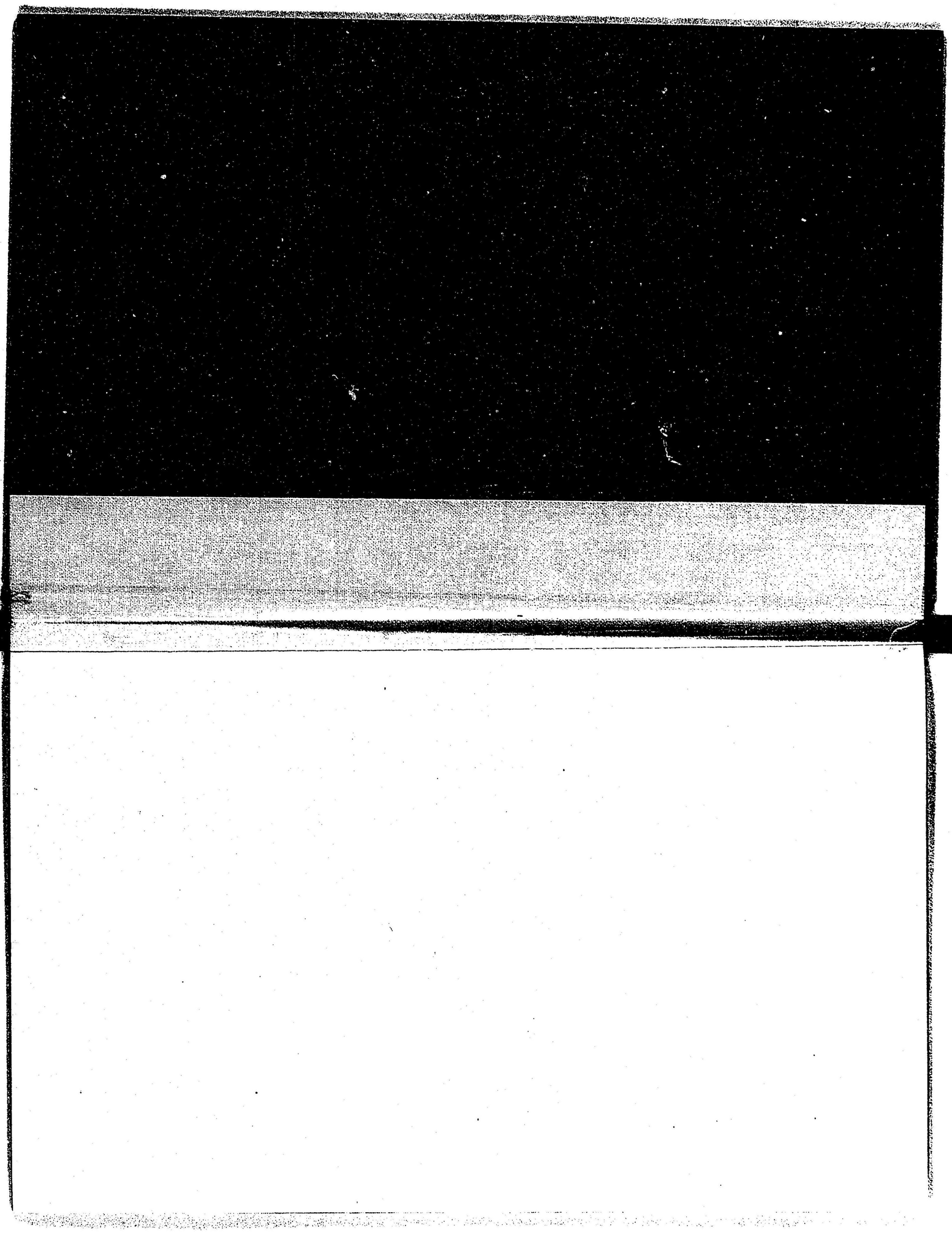


052708-000-6

12-22

小艦隊東京鎮台連合演習記

海軍省

M18

BFH-0192